



ワタナベテングビワハゴロモ 渡邊氏東方蠟蟬 *Fulgora watanabei*

第4回

高校生のための 生き物調査体験ツアーin 台湾

報告書

作成 令和2年3月

目次

1. 第4回高校生のための生き物調査体験ツアーin台湾 実施概要	1
2. 台湾の生物相	2
3. 主な訪問先	4
4. 実施スケジュール	5
5. 参加者感想文	6
6. 講師感想文	26
7. 観察できた生き物	30
8. 参加者アンケート	38
9. 保護者アンケート	50
10. 集合写真	53

1. 実施概要

目的

次世代を担う青少年が海外の未知の自然環境に触れることで、自然科学分野での視野を広げると共に、現地の人との交流により、国際的な感覚を体験させる次世代育成・国際交流事業を実施する。本事業実施により、未来ある若者の将来の指針づくりに役立ててもらおうと共に、花の万博の理念である“自然と人間との共生”を国際的に普及させることを狙いとする。

企画、主催団体

- ・企画、主管
公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会
兵庫県立人と自然の博物館
台北市立動物園
- ・旅行主催
株式会社 J T B

対象

高等学校1年生～3年生までの生徒

参加人員

日本人高校生20名 台湾人高校生20名

実施期間

令和元年8月2日（金）～令和元年8月8日（木）6泊7日

主な内容

- ・選考会 令和元年6月9日（日）
- ・事前学習会 令和元年7月7日（日）
- ・ツアー実施 令和元年8月2日（金）～令和元年8月8日（木）
- ・事後学習会 令和元年8月25日（日）

スタッフ

秋山 弘之	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境評価研究部 主任研究員
太田 英利	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境評価研究部 研究部長
池田 忠広	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境評価研究部 主任研究員
布野 隆之	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部 研究員
久保田 信也	公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 企画事業部 部長
佐々木 洋平	公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 企画事業部 第二課長代理
眞田 有規	公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 企画事業部 第二課課員
丸山 夏季	看護師

2. 台湾の生物相

台湾島の形成

台湾本島は、500万年以上前の造山運動で初めて海面から突出したと考えられている。その後、氷河期・間氷期それぞれにおける海水面の低下・上昇などにより、ユーラシア大陸の東岸と何度も離合を繰り返してきた。現在の台湾本島も、最終氷期に大陸の東岸と一体化していたものが、1万年あまり前に始まった気候の温暖化傾向にともなう台湾海峡の形成により、大陸から隔絶されたのである。このような複雑な形成史が、同じく複雑な地形や黒潮、季節風の影響の地域差とともに、その面積からは考えられないほどの環境や環境履歴の多様性を台湾にもたらしてきた。現在、この島に見られる驚くほど多様で、固有種率の高い生物相は、その結果にほかならない。

地形

台湾（中華民国）政府が実効支配する領域は、台湾本島とその東岸沖の蘭嶼、緑島、亀山島、南西岸近くの小琉球、台湾海峡の中央に位置する澎湖諸島、大陸に隣接する金門、馬祖、北岸沖の彭佳嶼、綿花嶼、そして大きく南に離れた東沙諸島から構成されており、面積は合わせて3万6千km²あまり（日本の10分の1弱、九州とほぼ同じ）である。台湾本島のうち西部は比較的広い平野で、対照的に中央から東側には急峻な山脈（中央山脈、玉山山脈、雪山山脈、阿里山山脈、海岸山脈など）が連なり、それらと東海岸との間は、西部に比べてずっと狭い平地となっている。このような地形のため、耕作可能地は島の約30%にすぎない。台湾の最高峰は玉山山脈の玉山（海拔3,952m、ちなみに富士山は3,776m）であるが、他にも標高3,000mを超える高山が多数連なっている。

気候

台湾の低地部は、北部が亜熱帯、南部は熱帯に属している。そのため、北部は夏季を除けば比較的気温が低いのに対し、南部は冬季を除けば気温が摂氏30度を超えることが多い。およそ5～9月が夏季とされ、この間、低地は特に蒸し暑く、北部でも日中の気温は30度を越えることが多い。特に7～8月は35度以上になることも珍しくない。いっぽう冬季とされるのは12～2月と期間が短い、この間でも気温は総じて温暖で、低地では20度を超えることは珍しくない。ただ北部や北西部では大陸からの季節風の影響も受けやすく、気温が10度を下回ることも珍しくない。なお山地は標高に応じて気温は低く、標高1,500m以上の場所では冬季には降雪が、2,000m以上では積雪が見られることもある。降水量は年間平均しておよそ2,515mmであるが、この値は緯度、経度、標高によって大きく異なる。夏季には日本の夕立のような猛烈な雨が降ることも多い。

台湾の生物相

台湾本島の陸生生物のうち飛翔による移動能力の高い鳥類や、種子による分散能力の高い維管束植物では、特に低地のもの、ひらけた環境に生息するものを中心に、種のレベルでインドシナ半島北部から大陸中国南東部のものとの共通性が高い。大陸との一体化の有無にそれほど関係なく、遺伝的な交流がある程度維持されてきたためであろう。ただし山地や森林環境には、台湾本島にしか見られない種、つまり固有種も少なくない。いっぽう九州、本州などの日本本土とは、種のレベルで共通するものはそれほど多くないものの、属のレベルでは多くが共通している。

気流の影響も受けつつ飛翔もする多くの昆虫類、なかでもチョウなどには、マレーシア、インドネシア、フィリピンといったアジアの低緯度地方と、種のレベルで共通するものが少なくない。またその多くは、日本の南西諸島とも共通している。とはいえチョウでも、生息環境が高地や森林に限られるものの中には、台湾の固有種は決して少なくない。

飛翔能力のない陸域や陸水域の動物になると、台湾本島での固有種の占める割合は、全体的にずっと高くなる。その中にはスウィンホーキノボリトカゲやモルトレヒトアオガエルのように、台湾では高山を除く全域で普通に見られるにもかかわらず、大陸にはまったくいないものも少なくない。これは台湾本島がごく最近まで大陸とつながっていたことを考えると、非常に不思議な現象と言わざるを得ない。

台湾本島以外では、例えば大陸と隣接する馬祖にはチュウゴクヒメトカゲやキタカナヘビのように台湾本島にはいない一方で、大陸中国と共通する種が少なくない。また台湾本島の南東沖に浮かぶ蘭嶼の陸生動物相は、台湾本島と共通する種が過半数を占めるいっぽうで、カタゾウ類やヤミヤモリ、キクチャモリ、カミングスキクのような、台湾本島には見られないフィリピン系の種も少なくない。これらの祖先は蘭嶼の南に位置するルソン島、バブヤン群島、バタン群島などから、黒潮に乗って漂着し定着したと考えられている。

このように多様性、独自性に富んだ台湾の生物相であるが、日本の場合と同様、近年ではその保全において多くの問題が提起されている。中でも深刻とされるのが、ここ数十年間での生息環境の物理的破壊、化学的汚染に伴う種多様性の低下、希少種のさらなる減少・絶滅で、とりわけ低地の湿地環境で大きな問題となっている点も日本と共通している。いっぽう特に最近では外来種の定着・拡大や、希少種の乱獲による生物多様性の喪失、生態系の変質への懸念も深刻化しており、一般社会に向けた普及啓発の徹底、そして対応する法の整備などが急がれている。

3. 主な訪問先

採集禁止

台湾では自然保護を重要視する考え方から、国家公園、自然公園、遊楽区などは法律により採集が禁止されている。その他、国の管理でない多くの公園や観光地でも採集禁止となっている。

台北市立動物園（臺北市立動物園）

現在の台北市立動物園は、絶滅危惧動物を保護し、動物保護の意識を高めることを目的とした保護公園として、1914年に設立された。現在使用されている面積だけで100ha、東京ディズニーランド二つ分の広さを誇る巨大動物園であり、多くの動物たちが飼育されている。13のエリアに分けられた園内は、園内配置に地理学的展示法が採用されており、動物の本来の生息環境に基づいた配置となっている。また、動物に自由に動ける空間が与えられており、コンクリートと檻の展示はほとんどない。

東眼山国家森林遊楽区（東眼山森林遊楽区）

台湾林務局は台湾各地の特性を生かした森林遊楽区を18箇所定めている。東眼山森林遊楽区は桃園市復興区、雪山山脈の末端に位置し、遊楽区全体の面積は916ha、標高は650～1,212m。標高1,212mの「東眼山」が最も高く、山頂からは周囲の連綿と続く山並み、桃園、三峡、淡水河等を見渡すことができる。2、3泊目に宿泊した東眼山自然教育センターは林務局が自然と環境倫理を学ぶために設置している施設であり、標高約900mの地点に位置している。

関渡自然公園

淡水川と基隆川の合流地点に位置し、50haもの面積を有する。台北市内にありながら多くの植物が生い茂り、湿地生態の観察を行うことができる。園内には自然センター、バードウォッチング小屋、河岸生態エリア、カニの観察エリア等の施設がある。また、渡り鳥の重要な越冬地ともなっている。ツアーでは園内を回って湿地生態の理解を深めるとともに、公園近くのマングローブの見学を行った。

国立故宮博物院（國立故宮博物院）

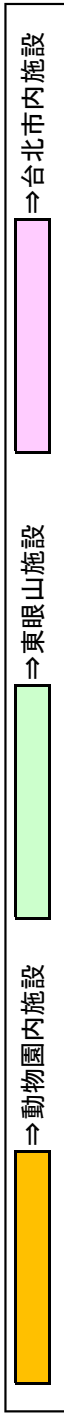
世界四大博物館のひとつ。中国歴代王朝の皇帝たちが収集したコレクションを基に約69万点以上の至宝を収蔵しており、常時約2万点が展示されている。今回のツアーでは7月5日から9月25日までの特別展である「故宮動物園」を台北市立動物園スタッフの案内で観覧した。

公館夜市

夜市は中華圏や東南アジアを中心に存在する夕方から真夜中に営業する屋台などの集合体であり、安くておいしい食べ物が揃う。今回のツアーで訪問する公館夜市は台湾で最も優秀な学生たちが集まる、国立台湾大学のすぐ目の前の夜市。学生や地元の人に愛され、治安の良い夜市を台湾の高校生の案内で散策した。

4. 実施スケジュール

8月2日	8月3日	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日	8月8日
	軽食&野鳥観察 朝食&出発準備 野鳥観察	軽食&野鳥観察 朝食	軽食&野鳥観察 朝食&出発準備	動物園へ移動(バス)	動物園へ移動(バス)	動物園へ移動(バス)
6:00~7:00	軽食&野鳥観察	軽食&野鳥観察	軽食&野鳥観察	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
7:00~8:00	朝食&出発準備	朝食	朝食&出発準備	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
8:00~9:00	野鳥観察	朝食	朝食&出発準備	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
9:00~10:00	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
10:00~11:00	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
11:00~12:00	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
12:00~13:00	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
13:00~14:00	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
14:00~15:00	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
15:00~16:00	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
16:00~17:00	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
17:00~18:00	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
18:00~19:00	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
19:00~20:00	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
20:00~21:00	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
21:00~22:00	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)
22:00~23:00	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	東眼山屋間観察	動物園 遊歩道 生物調査など 昼間観察	動物園へ移動(バス)	台北市内移動(バス)



5. 参加者感想文

和歌山県 1年 女子

今回のツアーで得たことは3つあります。

1つ目は、生物についての知識です。普段なら生き物を捕まえても、種まで特定出来ませんが、ツアーではすぐに先生方が種や生態を教えてくださいましたので大変勉強になりました。天敵から身を守るために植物がアリと共生したり、ジャコウアゲハの幼虫がアクの強い植物を食べたりする知恵に驚きました。カタツムリの右巻きと左巻き、トンボやアオハブのオスとメスの見分け方を教えて頂いたので自分でも見分けることが出来るようになりました。特にカエルはリーダーが大好きだったので、詳しい説明を聞くことが出来て嬉しかったです。木に登るカエルや竹の中に卵を産むカエルがいることを知り驚きました。マングローブ林とコウモリを間近で見たのは初めてでした。マングローブの葉は思ったよりも硬くてつるんとしていました。反対にコウモリの毛は思ったよりも細くて柔らかかったです。

2つ目は外国語を学べたことです。台湾の人との会話は英語でなければならなかったのですが、自然と英語を学ぶことが出来ました。生物の英名を知らないで聞き取れなかったことが残念でした。また、東眼山や動物園で生き物を探しながら中国語を教えて貰いました。発音がとても難しかったです。3月に修学旅行で台湾に行くのでそれまでにもっと英語と中国語を勉強しようと思います。

3つ目はたくさんの友達が出来たことです。一緒に行った日本人はもちろん、台湾の人とも友達になれました。生物を好きな人ばかりなので、大学で再び会うことが出来ると嬉しいです。台湾の友達とは日本に戻ってからもSNSでメッセージのやりとりをしています。1月に同じ班だった女の子が私に会いに日本に来てくれることになりました。とても楽しみです。

生物を捕まえて観察するのは本当に楽しかったです。植物が好きでツアーに参加したはずでしたが、いつの間にか動物も好きになっていました。大学では生物について学びたいと考えています。以前は植物のみを研究したいと思っていましたが、ツアーを通してフィールドでの実習がある、生き物の研究を行える大学に進みたいと思うようになりました。今回の経験が将来の研究に活かすことができれば良いと思います。

「台湾での生物調査を終えて」 大阪府 3年 男子

今回、参加させていただいた「高校生のための生き物調査ツアー」で私は様々な体験をしました。特に、印象深かったのは東眼山で行ったライトトラップです。日中の観察会では見つけることが難しい夜行性の昆虫が大量に集まってきて、なおかつ日本ではみたことがないような昆虫が多数見られたからです。例えば迷彩柄のゴキブリやマルバネクワガタ、派手な蛾、ツノトンボなどを見て興奮し、蛾やカメムシ、ゴキブリが服に纏わりつくことも気にせず夢中で写真をとっていました。最初のライトトラップ辺りからあだ名が「林さん」とか「林先生」になっていました。

夜間観察ではライトトラップでは見るができなかった夜行性の昆虫を見ることができました。特にタイコウチは日本では野外で見ることがなかったので驚きました。その他、ヘビやカエルを観察でき興味深かったです。また、アカマダラの観察中に人差し指を噛まれた苦い思い出もあります。あの時は台湾の方まで巻き込んで手当していただきありがたかったです。日中の観察会でも驚きがいっぱいでした。キノボリトカゲや鮮やかな蝶やトンボを片っ端から捕まえていました。特に捕まえて嬉しかったのはアカスジベッコウトンボなどのトンボ類です。石垣島に行った際は南国特有のトンボをあまり捕まえることができなかったので鮮やかなトンボを捕まえられたことはとても嬉しかったです。この他にもコウモリの研究者と一緒にコウモリのハープトラップを設置して捕獲されたコウモリを観察したり、関渡自然公園をガイドの方に説明してもらいながら散策したりなど得難い経験をしました。

生物調査以外にも故宮博物院で学芸員の方に案内してもらい、翠玉白菜や肉形石を鑑賞したり、グループリーダーに台湾の夜市を案内してもらったりしたことも楽しい思い出です。臭豆腐は想像していたよりもケミカルな臭いがし、最初路地裏の汚水の臭いかと思っていました。強烈な臭いでしたが口に入れるとほとんど気にならなくなり美味しくいただきました。このツアーで私は生物だけでなく台湾の文化や魅力を知ることができました。

この素晴らしい経験をこれからの人生に活かしていきたいです。参加させていただきありがとうございました。

「台湾に戻りたいよう」 兵庫県 2年 男子

ぼくは、台湾生き物ツアーに参加させていただいて、想像以上にいい体験ができたと思いました。ぼくが特に印象に残ったことは2つあります。

1つ目は、台湾の植物をたくさんみれたことです。日本では見れない植物が観れたことはもちろん嬉しかったです。でも、もっと興味深かったことは、専門の先生からさまざまな知識を教えていただいたこと、日本にたくさん生えている植物の台湾の変種をみれたことです。たとえば、ぼくの家裏庭にも生えているイヌビワとイチヂクコバチの共生関係を聞いたときは、身近に生えている木はこんな面白い生き方をしているのか！と感激しました。これは専門の人と森に入らなければわからないことなので、このツアーに参加していなかったらこの知識は得られなかったと思います。また、うちの裏庭に生えているイヌビワと、台湾に生えているイヌビワは、葉の手触りがかなり違っていました。日本のイヌビワは葉がすべすべしていたけれど、台湾のイヌビワは葉がザラザラでした。似てるけど、全く種類は違うと感じました。環境がちがったり、距離が離れていたりすると、にたようなものでも変異が生じる、という当たり前のことを生で感じられたことが、とても嬉しかったです。

2つ目は、ツアーに参加しているほかのメンバーとの交流です。ツアーに行く前は、一緒に行く人と仲良くなれるだろうか、と不安でしたが、そんな心配は不要でした。使う言葉が違う台湾の人と仲良くなれて、台湾に関する面白い話を聞かせてもらったり、台湾語を教えてもらったりしました。国際交流に必要なのは英語のややこしい文法ではなくて、積極的に話かけることなんだな、と思いました。日本人のメンバーとも、とても仲良くなれました。普段学校で、木の葉っぱを見てデヘへと笑っているような人は皆無で、同じ趣味を持つ人がおらず、さみしい思いをした時期もありました。でも、台湾ツアーで出会った人はみんな生き物が大好きで、とにかく会話が弾みました。自分の知らない知識をたくさん教えてもらったり、夜にどうでもいい話をしたりするのがとても楽しかったです。

ぼくは、このツアーに参加して、とても成長できたと思っています。なんだか学校行事のあとの感想文みたいな言葉を書いてしまったけれど、今回は本当にそう感じました。生き物のことだけでなく、台湾の高校生との交流を通して、違う国の人と仲良くなる方法など、さまざまなことを学びました。この経験を将来に生かしていきたいです。

「台湾での7日間について」 京都府 2年 女子

私は台湾ツアーの中で学んだことがいくつかあります。

学んだことの1つは、双眼鏡の正しい使い方、動物、植物の名前やそれぞれについての知識、標本を作るときに記録する内容、コウモリについてなど、生き物調査体験に参加したからこそ知れたことです。特に私は植物に興味があって参加しました。マングローブ林の根のほうや、ガジュマルなど私が見たかったものを実際に見ることができてとても楽しかったです。同じ班に植物が好きで参加している人が他にもいて、とても知識を持っていたので、私も気になったことはすぐに調べてもっと知識を得たいと思いました。また、野外調査で捕まえたカエルや虫などの名前の中国語を教えてもらうことが楽しかったです。

次に台湾の人との交流の中で学んだことです。私は翻訳アプリなどを使えば簡単に交流ができると思っていました。しかし、翻訳アプリも必ず合っているわけではないし伝わらないこともありました。将来のためにも外国の人と交流するには普通の英語の授業だけでなく、スピーキング、リスニングの力を自分でつけていかなければいけないと思いました。また、このツアーでは英語が上手か下手かよりも、身振り手振りを使って、イラストを描いて、交流することが大切でした。でも、私は周りの人が英語をととても話せる、聞き取れることに圧倒されて自分あまり話しかけることができませんでした。そこが反省点だと思います。それでも台湾の同じ班の人は中国語を教えてくれたり、日本語ではどう言うのか聞いてくれたりして嬉しかったです。また、私が交流のため道具として持って行った手作りの福笑いで何度も遊んでもらえてとても嬉しかったです。

学校が始まったら、このような台湾で学んだこと、外国の人との交流が楽しいこと、新たな知識を得ることの楽しさをみんなに知ってもらえるように、自分が体験したことを紹介したいと思います。また、私は学校の研修旅行で海外に行くので、台湾での反省を活かして積極的に話しかけたいです。

「事後感想文」 兵庫県 1年 男子

私はこの台湾ツアーは私の人生の中の忘れられない最高の1週間になったと思います。今では初日の寝袋でみんなで寝たのもいい思い出です。はじめは、一緒に行く日本人と仲良くなれるかや台湾の人々に受け入れてもらえるかや毒蛇に噛まれないだろうかなどの心配事がたくさんありました。しかし、みんなが仲良くしてくださりその心配はすぐなくなりました。本当に心優しい方々に恵まれて幸せでした。

私がこのツアーに申し込んだ理由は去年これに行ったクラブの先輩に勧められたからです。最初は台湾に1週間はホームシックになりそうだなと思っていました。しかし、行ってみるとすぐに日本に帰りたくないという気持ちでいっぱいになりました。先輩はこのツアー中ずっと相談のLINEを送るとどんなに遅い時間でも相談にのってくれました。もちろんこのツアーの同行の方々にも感謝の気持ちでいっぱいですが、先輩にはそれ以上に感謝しています。

台湾に行く前、台湾は日本と近いし形や特徴も似ていると思っていました。しかし、よく見ると色や形、大きさが全然違っていろいろな発見がありました。ハサミムシが一番驚きました。ハサミの大きさが日本の物とはけた違いに大きかったです。海をはさんでこんなに姿や形が変わるもんなんだと驚きました。

私はこのツアーで台湾にたくさんの友達が出来ました。みんな優しく僕らに「你好(ニーハオ)」や「謝謝(シェーシェー)」から「不客氣(ブーカーチー)」など発音を丁寧に教えてくれました。しかし、そんな彼らとも1週間でお別れです。色紙を書いていると涙が溢れてきました。やっぱり、お別れは寂しいものです。もっと彼らと話し合い、仲良くなりたかったとお別れ前にまた大泣きしてしまいました。しかし、みんなとLINEを交換すると「英語の勉強がんばれ!!」や「また台湾に来てね」や「日本を案内してね」など優しいコメントが多くて返ってきてまた台湾に行きたいなと思いました。そして、彼らと出会えてよかったと感じました。

「台湾生き物ツアーに参加して」 兵庫県 2年 女子

今回このツアーに参加してたくさんの発見や、いい経験ができました。

まず1つめは、台湾のたくさんの生物を見ることが出来たことです。爬虫類や両生類に特に興味があり、ツアーに参加しましたが、予想以上にたくさんのヘビやカエルが見られて以前よりも興味、関心が持てました。これから、研究が出来る大学に進学できたら、それらについてもっとたくさんのことを学んだり、研究したりしたいと思います。また、たくさんの生物を見ることがだけでなく、生態について学べたこともとてもいい経験になりました。どの生物も、とても面白い生態をしていたり、凄い進化を遂げていたりしてとても興味深かったです。生態を知ること、その生物がどのようにして生き延びているのか、どうしてこのような進化を遂げたのかを知ったり、考えたりするいい機会になりました。台湾は台湾の固有種や日本にはいない生物がたくさんいましたが、日本と気候が似ていたりして、同じ種もたくさんいて、これから生物を見たら、もっと注意深く観察してみようと思いました。

2つめは、台湾の人と交流が出来たことです。今回、初めて海外に行きましたが、初めは、自己紹介でさえあまりコミュニケーションが取れませんでした。けれど、台湾の人たちはとても積極的に話しかけてくれて、英語や少し日本語なども使っているいろいろ教えてくれました。一緒に行動していくなかで台湾の人たちは積極的に日本語を学ぼうとしていたり、自分達の住んでいるところについて教えてくれたりと、たくさんコミュニケーションが取れるようになりました。また、台湾の言葉や文化も積極的に教えてもらい、とても勉強になりました。

3つめは、台湾の人たちはとても自然を大切にしていると知ることが出来たことです。自然公園や保護区以外でも、むやみに生物を捕獲したりしていないので、自然にとっても近い姿が見れたと思います。日本でも、このような自然を大切にする考え方が広まったらいいなと思いました。その他にもたくさんの発見や、今後出来ないような貴重な体験ができてとてもいい1週間を過ごすことが出来ました。これからの進路や、学校生活に役立てていこうと思います。

東京都 1年 男子

台湾研修では、どの生物に関しても先生方が詳しく教えてくださり、質疑応答も活発でとても勉強になりました。

出会えて一番嬉しかった生物はタイコウチです。生物部の河川の多様性調査では出会うことができなかつた水生昆虫で、初めて見ることができました。台湾の用水路の至る所にタイコウチが生息していてとても驚きました。タイコウチは自分の想像より小さく、体が細く柔らかかったことが印象的でした。興味をひいたのは尻にある呼吸管を使って呼吸していることでした。調べてみると、カメムシ目の昆虫だということや腹部末端から延びる長い呼吸管の姿から water scorpion と呼ばれることが分かりました。

私が所属する生物部ではマルハナ蜂の研究をしています。巣の作り方が似ているハリナシ蜂を見たいと思っていましたが、唯一見ることはできたのはスズメ蜂でした。この蜂は竹筒に巣を作る珍しい蜂で、台北動物園内で生息できるように竹筒を集めて巣を作ってあげたそうです。台湾では、人間に害を加える生物、毒がある生物を殺すことなく保全し続けているそうです。また、そうすべきだと考えていることを知りました。しかし、日本では人間に害を加える生物をほとんど駆除してきたと友達から聞きました。その行動が生態系を崩してしまい日本の固有種の絶滅へと繋がってしまうのではないかと考えてしまいました。

私はこの研修で台湾にいる生物をたくさん知り、日本と台湾の生物への考え方の違いも学びました。

最後に、台湾の伝統や文化、食べ物も忘れられない思い出です。誕生日に桃を食べる風習があって皆で桃のあんまんを食べてお祝いしたこと。何軒ものお店をはしごしながら食べることが慣習だということ。台湾独特の食べ物を分けあって食べてその臭いと味に驚きあったこと。

この研修では感謝しきれないくらいたくさんの方の経験をしました。参加にできて本当に良かったです。

「生物多様性の台湾で学んだこと」 岡山県 1年 男子

「高校生のための生き物調査体験ツアー in 台湾」で、私は台湾に生息する様々な種類の生物を実際に見て観察することができた。そしてその生物についての詳しい知識と、それらを取り巻く環境について学ぶことができた。また、台湾人の先生や高校生と寝食を共にし、台湾語で講義を受ける中で、異文化も体験した。ツアーでの体験は、私の興味の幅を広げただけでなく、先生方のような生物学者になりたいという夢をより強くした。

一番強く印象に残っているのは、生物・環境保全の取り組みだ。台湾には固有の生物が多数生息していることを体感したが、研究者はもちろん一般市民も保全の意識が高いことを肌で感じることができた。例えば、食事のときお弁当箱が紙でできていたり、アルミでリユース可能だったりしたことだ。台北動物園内のゴミも、分別が徹底していた。

次は台湾の高校生との交流だ。生物の名前を台湾語で学ぶことはとても楽しかった。挨拶や会話も、むずかしかつたけれど伝わったときにはうれしかった。私の趣味の切り紙も、思いがけず喜んでくれて自信にもつながった。途中体調を崩し、故宮博物館見学、公館夜市に行くことができなかつたのはとても残念だ。ぜひ機会を見つけて訪れたい。

ツアーで知り合つた日本人と台湾の高校生、お世話をしてくださつた先生方とのご縁をこれから大切にしていきたい。私は関西の高校生ではないので最初は不安だったが、同じ日本でも生態系が異なる地域に住む仲間と知り合えとてもうれしい。岡山にもぜひ来てほしい。

最後になりましたが、ご心配やご迷惑をかけながらもツアーを無事に終えることができたのはサポートしてくださつた先生方のおかげです。ありがとうございました。

「私を得たこと」 兵庫県 2年 女子

私は、今回台湾でたくさんのことを得ることができました。

一つ目は、友達です。私は、このツアーの参加者に同じ学校の人や知り合いもいなくて事前学習会の時はとても緊張していました。みんなと仲良くなれるのか少し不安な気持ちがありました。しかし、台湾に行ってみるとたくさん話してみると、とても優しく面白い人ばかりですぐに仲良くなることができました。学校では爬虫類や昆虫の好きな女子友達があまりいないのですが、このツアーに参加している女子は爬虫類なども好きという人ばかりでとても話があって嬉しかったです。また、台湾の人達とも仲良くなることができました。私は英語が苦手なので、積極的に話すことはできなかつたのですが、向こうから話しかけてくれてたくさん話すことができました。台湾の人からは中国語や台湾について学びました。英語で会話をしたことによって少しは英語力も付いたと思います。

二つ目は、生き物の知識です。私は専門家のように話してくれる人とは違い、生き物がとても好きなだけで一般的に知られているようなことしか生き物についての知識はありませんでした。このツアーでは先生だけでなく、台湾の人や友達からもたくさんのことを聞いて学ぶことができました。また、生き物と触れ合いながら学ぶことでその生き物の形、色、感触、におい、特徴などきちんと記憶に残りました。私は、生き物と触れ合いながら学べることは貴重であり、必要なことだと思いました。

三つ目は、人間が生き物に及ぼしている影響について考える機会です。私は、センザンコウの話聞いて心が痛くなりました。また、なぜそのようなことが起きるのかとても疑問に思いました。人間の勝手によって絶滅してしまったり、苦しめられている生き物がいることはとてもいけないことだと思います。センザンコウの話聞いて、そんな環境を変えたいと強く思うことができました。

私は、このツアーに参加できて本当に良かったです。とても楽しく、あっという間の一週間でした。先生方、企画運営をしてくださった方、本当にありがとうございました。

「高校生のための台湾生き物研修に参加して」 大阪府 1年 女子

私は、もともと生き物がそこまで大好き！という感じではなく、この研修を通して様々な生き物に触れてみたいなあという単純な興味が参加してみたいと思ったきっかけでした。この研修から私が経験出来たことは参加する前の想像をはるかに超えるものの連続でした。1日目の夜間生物調査で折り返し地点でベンチで休憩してたとき、カエルの鳴き声に癒されていたらベンチにゴキブリがいると教えられ、その後あまりの大きさに驚愕しました。大きな大きなゴキブリをギラギラした目で見つめるみんなを見て、果たして私はここの人達と分かり合えるのだろうか、と少し疑問さえも持ちました。実際には2、3日目の東眼山の部屋にゴキブリが出たときはゴキブリだったただの虫だ、と思えるくらいになり、私も少々気が狂ってきて克服出来ていたのだと思います。

この研修で自然の中でカエルやヤスデ、カブトムシにヘビ、鳥、トカゲ、ナマケモノ…などたくさんの動物をみんなで追いかけていましたが、私、これが好きだ！と目覚めたものがコケと木と星です。コケは身体の構造が極めて原始的な作りで、表面に付着した水を素早く取り込むことが出来ます。山に行ってコケに霧吹きで水をかけたとき、ものの5秒でコケが乾いてたんです！すっかりコケの魅力に取り憑かれた私は、気に入ったコケを見つけては水を与えるすごい環境に優しい人になっていました。木はこの1週間山や動物園で膨大な数のひとつひとつが違う形をした木を見てきてなんか好きだなと思えたからです。日陰を作ってくれた感謝の気持ちもあります。星は夜間生物調査のとき、下ばかり見ていたときふと上を見たときの日本の、少なくとも私の住んでいるところでは見れないくらいに瞬く星空を見上げて感動したからです。同じ班の台湾の女子と私は話をしたり、行動したりすることが多く、英語でコミュニケーションを取るのはとても難しかったけど、いい友達に巡り会えたなと思います。

また、私が描いたキノボリトカゲの絵はこの1週間で実際に見たものの特徴を余すことなく捉えようと頑張ったので、最後の成果発表で私の班が2位になれて少し嬉しかったです。

朝から晩までほぼ山に出歩く1週間。家族と旅行するだけじゃ絶対することのない経験の数々。ましてや国際交流も兼ねていたこの旅。私の人生の財産になった気がします。

「台湾研修で得たこと」 兵庫県 2年 男子

今回のツアーに参加して得ることができた1番の成果は、生物に関わる進路に進みたいという決意です。もともと私は生物に関わる進路に進みたいと考えていましたが、本当にこれでもいいのだろうかと思うこともありました。しかし、ツアーで様々な動植物について学ぶうちに進路の選択は間違っていなかったと感じると同時に、生き物について学ぶということの面白さを改めて実感し、大学でもっと詳しく学びたいと思いました。

また同じ生物好きの高校生と一緒に学ぶことで、他の人が行っている研究のなど、非常に興味深い話を聞くことができ、自分が行っている研究をどのように進めていけばよいかとても参考になりました。

今回のツアーで最も印象に残ったのは、動物園の役割です。台湾は面積が小さいので人間の生活圏に動物が入ってくることが多々あり、ロードキルや、農作物を荒らして駆除されてしまうことがあります。さらにセンザンコウなど鱗を狙われて密猟されてしまう動物もいて、様々な理由で絶滅の危機に追い込まれることがあります。台湾の動物園はそのような動物の保護を行い、人と動物がどのように関わっていくべきなのか人々に伝える役割があると聞き、いままで珍しい動物を見るだけで終わっていた動物園の行っている取り組みを調べてみようとおもいました。

台湾の高校生との交流もとても楽しかったです。基本英語で会話していましたが、食べ物中国語での言い方を教えてもらったり、ゲームを一緒に楽しんだりと会話で困ることはあまりなく様々な話ことができました。4日目の夜市では案内をしてもらい、小籠包やかき氷などをおいしくいただきました。面白かったことが、台湾ではタピオカミルクティの甘さが5段階ほどに分けられていて、3以上だと現地の人でも飲めないぐらいの甘さだそうです。ちなみに私は1で飲みましたが十分に甘かったです。ポスター制作では拙い英語でも何度も聞き直してもらい、無事完成させることができました。みんなと過ごした6日間は今までの夏休みで1番充実していました。

これから3年次に向けて、今回のツアーで得た生き物についてもっと知りたいという気持ちと、生き物を尊重することを大切にして、研究に取り組んでいこうと思います。

「高校生のための生き物調査体験ツアーに参加して」 兵庫県 1年 女子

私は最初、このツアーに参加するかどうかを本当に迷っていました。二次試験で見た周りの同年代の方々の生物の知識や熱意そのものに圧倒され、自分のように知識や経験もほとんどないような人間が参加して良いのか分からなくなったからです。しかし、参加してすぐにその心配が杞憂だったと分かりました。先生方は勿論、班を超えて時には台湾の高校生の子までもが優しく丁寧に色々な事を教えて下さったからです。また、このツアーを通して私は生物の事は勿論ですが、それ以外にも本当に様々な事を経験し、学ぶことが出来ました。

台湾の高校生の子と話す時は、お互いが普段母国語として使っていない英語でしか基本的に意思の疎通が出来ず、凄く難しかったです。どうすれば相手により伝わるかを考えることは本当に勉強になりました。仲良くなるにつれて、お互いの国の言葉やゲーム、学校生活について話すことが出来て楽しかったです。また、同じ日本人の子でもほとんどが異なる学校に通っていたので、それぞれの学校生活や部活の話、趣味の話が聞けて面白かったです。

日本や台湾の先生方から様々なお話を伺う機会が多くありましたが、その中でも特に心に残ったのは生態系のお話です。私達の生活は周りを取り巻く環境と活動から成り立っていることは知っていましたが、詳しい生態系や、保全活動のお話を伺うのは初めてでした。絶滅しそうな生き物の数を増やすためには単純にその生き物の数を増やすだけでなく、周りの環境から変えていかなければいけないというお話や、私たちが自然に優しいと思って行っている風力発電が原因でコウモリが死んでしまう一因になるという話が印象的でした。

学校で生物部に入っていない私にとってあんなにも広大な自然を歩き、生き物や植物を見つけ、時には触れたり、食べてみたり、観察することや、行ったこともない場所で、それまで話したことも無い同年代の子達と友達になることは初めてだったので、新しく知ること、経験することの連続でしたが、そのどれもが本当に忘れがたい経験になりました。

「ツアーでの3つの学び」 兵庫県 1年 男子

今回のツアーで僕の印象に残っていることは3つあります。まず、僕は多種多様な生物について学びました。例えば、タイワンアオハブやダイアルセダカヘビ、スウィンホーキノボリトカゲやキクチキノボリトカゲなどの爬虫類、ガガンボ、シミ、ゾウムシなどの昆虫類、アフリカクロトキやゴシキチョウなどの鳥類、他にもヤスデやクモ、コケなどについてです。それも、ただ名前を知っただけではなく、ヒキガエルが分泌する毒の名前や、カタツムリを食べるヘビの特徴、「スウィンホー」と名前に付く生物の多さ、トカゲの噛む強さといった、ただ図鑑を読んでいただけではずっと知らずにいたであろう事と合わせて知ることができました。

次に、実際に様々な生物を観察したことで羽や足の付き方、目の詳細な形状に気付き、僕の趣味である生物などの絵を描く際の参考になりました。また、先生から直接理系の進路で絵や生物の形状に関係するものについて教えてもらえ、あまり深く考えていなかった将来のことをしっかりと考える機会になりました。

最後に、今回のツアーで一番印象に残ったのは、台湾の学生さんたちやツアーのメンバーたちとの関わりの中で感じた「人とコミュニケーションを取る時は、相手の話に相槌を打ったりするだけではなく、自分の意見を積極的に言っていくべきだ」という事です。なぜこのことが印象に残ったかということ、相手の話を聞いているだけでは話が終わってしまって場が盛り上がらなかったり、相手のペースに巻き込まれてしまうという当たり前のことを旅全体のコミュニケーションを通して実感できたからです。

僕は、高校に入って、新しい友人や知り合いができました。そこで、今回の度での学びをうまく活用して、昔からの縁も新しい縁も大切にしていきたいです。

大阪府 2年 女子

私はこの7日間の思い出を一言で言うと「刺激」だと思います。私はたくさんの刺激を、たくさんの人から受けました。

それを身をもって体感したのは、旅行から帰ってきて部室に行った時のことです。私の部室にはたくさんの虫がいるのですが、もともとそれがとても嫌でした。しかし、今回の旅行で生態系があるから私たちがいること、そして虫たちが生きるために施しているたくさんの工夫を聞きました。そしてそれは私の視点を変えるほどの大きな刺激になりました。その部室の虫たちに興味を持てるようになったのです。周りに「虫嫌いじゃなかったっけ？」と驚かれるほどです。自分でも、正直自分の変化に驚いています。それと同時に、いい刺激を受けられたことを嬉しく思っています。

しかし私が受けた刺激はそれだけではありません。それは、40人、初めて話す友達からでした。そもそも、私は自分以外一人も知らないという状況で参加しました。最初は仲良くなれるのか、不安しかありませんでしたが、日が過ぎて、たくさんのことを一緒に経験するうちにとても一週間しか一緒にいないと思えないほど親しくなれました。最終日はお別れで泣いてしまいました。よく考えるとこの40人は、住んでいる場所も、学校も、性別も、国籍までバラバラの生き物好きという共通点だけで繋がった関係です。とても不思議な状況ですが、だからこそ、お互いに大きく刺激し合えました。大きな夢を持っていたり、自分の周りにはいないような特技を持っている人がいたりなど、本当にたくさんの刺激です。

このような刺激的な7日間は最初で最後の貴重な経験で、二度と忘れられない夏の思い出になりました。ありがとうございました。

「出会いと別れ」 大阪府 1年 女子

この7日間でたくさんの人、生き物と出会いました。たったの7日間なのに、たくさんの思い出が出来ました。たくさんの友達と巡り会えました。

1日目。その日までが長く感じて、やっとこの日が来たんだと思いました。日本人同士でも、まだ落ち着かないのに台湾の人との交流の時は、何が起きているのか理解できない程焦りました。それでも台湾の人は自分から話しかけてくれて安堵しました。初日からツアー名の通り、生き物調査がはじまり、本当に色々新鮮でした。

2日目、3日目。早朝から野鳥観察がはじまりました。口ばしにより、どういう食べ物、狩りをしているかが分かり、感心しました。東眼山の景色は幻想的で、胸が高鳴りました。中学生になってから、木の美しさに気付き、金剛山に行くようになりました。森林の心が洗い流される感じを味わえて良かったです。そしてこの日から、たくさんの爬虫類・両生類を見ることが出来ました。どの生き物も目が輝いていて、生きていて凄いなんだと身をもって実感しました。

4日目、5日目。少しずつこの生活に慣れはじめ、台湾の人とも自ら会話をすることが出来るようになりました。衝撃的だったのが、ジャンボタニシです。赤い卵が脳裏に焼きついたままです。繁殖率も高く、脅威だと思いました。国立故宮博物院では、貴重で大切に保管されている品々を拝見しました。歴史は今の自分たちの生活につながる本当に大事なものだ分かりました。夜市では台湾の友達が色々な店に連れて行ってくれました。たくさん台湾のことについて話してもらえて嬉しかったです。遂にポスター作りもはじまり、ツアーの終わりが視界に入り久しぶりに時間の限界に悩まされました。そんな中、誕生日を祝ってもらいました。こんなに大勢の人に祝ってもらったことはなく、とんでもなく嬉しい思い出が出来て、一日は終わりました。

6日目。台湾の人と別れたくありませんでした。もっと喋りたかったです。プレゼンの時が最後の交流となりました。結果はだめでも心で繋がり合えた実感しました。そして別れが現実になり、本当に辛かったです。ホテルでもずっとひきずってました。

7日目。何か空白がありました。大きなものを失った気がしてまた思い出しました。でもこれほどの思いがたったの6日間で生まれることを知りました。飛行機に乗り、終わりを迎えました。7日間というのは短いもので普段とは比べ物にならない位、充実していました。生き物の素晴らしさ、美しさを改めて確認出来ました。出会いは別れを導き、思い出となり、経験として宿り、伝承に繋がる。この思い出が私から消えてしまわないよう、大切に心に留めておきます。

「台湾での生物調査体験ツアーを終えて」 奈良県 2年 男子

台湾での生物調査体験ツアーは、どのプログラムも普段は体験できないようなことばかりで、とても印象的だったが、特に印象に残っていることは二つある。コウモリの観察と、遊歩道での生物調査だ。

コウモリ観察では、トラップにかかったコウモリを先生が持って私たちにを見せてくださったが、コウモリの周りには人が集まっており、写真を撮るのは難しかった。そこで、私は野帳に簡単なスケッチを書くことにした。描いている時、ある台湾の先生が私の描いたスケッチを見て「特徴をよく捉えている」と言ってくださり、とても嬉しかった。今までコウモリを間近でじっくりと観察できる機会がなかったので、コウモリの顔つきや体の構造を初めて知ることができ、良い経験になっ

たと思う。また、観察前の講義も興味深い内容で、特に Umbrella species と Keystone species について興味を持った。Umbrella species とは、その種を守ることで他の生物も一緒に守ることができる種のことで、反対に Keystone species とはその種が失われると生態系全体が崩壊してしまう種を指す言葉だという。この考え方は今までに聞いたことのない考えだったので、このことについてさらに知りたいと思った。

遊歩道での調査では歩けば歩くほど様々な生物が見つかり、その都度、発見した生物について先生が説明してくださった。発見した生物があまりにも多く、時には1時間かけても数百メートルしか進まなかったこともあった。この調査から、普段なら歩き去ってしまうような道でもよく注意しながら歩けば、たくさんの生物が発見できることを学んだ。日本に帰ってからも、このことを活かしながら道を歩いてみたいと思う。

このツアーを通して、生き物とその調査方法について知ることができ、さらに通う学校も住んでいる場所も違う日本や台湾の高校生と仲良くなることができた。参加希望の時の作文に書いた「日本では見ることのできない生物を観察する」「人とのつながりを作る」という二つの目標が達成できたので、このツアーに参加して本当によかったと思っている。

「生き物調査体験ツアーを終えて」 奈良県 1年 女子

私はこの生き物調査体験ツアーを通して、様々なことを学ぶことができました。台湾に生息している生物や動物については勿論、台湾で現地の高校生と一週間過ごし、台湾の文化もたくさん知ることができ、とても良い経験になりました。

元々、生物について詳しくないので、出発前には正直、他の参加者についていけるか不安なところもありました。でも、ツアーが始まり、1日、2日と過ごしていくうちにそんな不安は全くなり、ツアーも終わりに近づくにつれて、まだまだ台湾にいたいと思えるほど、とても楽しい1週間でした。

東眼山での観察は、涼しくて観察もしやすく、たくさんの生物や植物がみられました。カタツムリやナメクジを食べるタイヤルセダカヘビや、木の洞で子育てをするアイフィンガーガエルなど独特で面白い生態をもつ生物が見ることができて、とても印象的でした。

他にも、コウモリの観察が印象的でした。コウモリと聞くとやはりドラキュラなどあまり良くないイメージが強かったのですが、コウモリについての講義でドラキュラのように血を吸う種類は少なく、昆虫や果実などを食べる種類が多いと聞き、コウモリに対するイメージが変わりました。そして、実際にコウモリを触り、間近で見るととてもかわいいと思いました。

また、夜市では、台湾で食べてみたいと思っていたジーパイという大きなフライドチキンや、本場のタピオカ、日本ではなかなか飲むことができないサトウキビジュースと牛乳を混ぜたドリンクや、パッションフルーツのかき氷、臭いことで有名な臭豆腐も美味しく食べることができ、とても楽しい時間になりました。

私は、このツアーに参加する前から台湾の文化に興味があり、中国語の勉強もしていましたが、難しくて諦めかけていました。しかし、このツアーに参加して、台湾の高校生とも友達になることができたので、また頑張ってみようと思いました。今回食べられなかった食べ物や行けなかった場所もたくさんあるので、また台湾に行きたいです。普段、日本で生活していてもなかなか経験することができないことがたくさんでき、本当に有意義な1週間になりました。

「体験学習を終えて」 群馬県 1年 男子

今回の体験学習で、僕は様々な人生で初めての体験をすることができました。また、それらを通して、大きく分けると特に2つのことを学べたと思っています。

1つ目は、生き物とのかかわり方に関する事です。僕は今までも生き物が好きでしたが、本当に「生き物が好き」というだけで止まっていたような気がします。ですが、ツアーでは日本では見ることが出来ない生物を観察することができただけでなく、生き物のことを専門的に研究しておられる博物館の先生方や動物園の職員の皆さん等、普段はめったに関わることができない方々との交流をすることが出来、生き物の研究や保全など、今までの自分にはなかった多角的な視点から生き物について考えることができました。自分の将来の方向性はまだ理系に進みたいという漠然としたことしか決まっていなかったのですが、今回の経験で生物に関わる研究や職業を、一部ですが具体的に知ることができました。そのため、今後の自分の進路を考えるにあたって貴重な材料になりました。

2つ目は、台湾の学生とのコミュニケーションについてです。自分は事前に少し台湾語について調べておきましたが、正直英語を使う場面の方が圧倒的に多く、結果的には使う機会がほとんどありませんでした。しかし英語に関しても、今まで身に着けたもので十分かと言われるとそうでもありませんでした。台湾の学生は皆さん英語が堪能で、向こうの方から話しかけられた事に対して英語で受け答えすることはできても、自ら積極的に英語でコミュニケーションを取りに行くことが難しかったなど、自分の英語の力が足りない事を痛感させられる場面も多々ありました。ですが、今までの自分の語学学習へ取り組む態度を見直し、今後の自分に繋げる良いきっかけになったと思います。

ツアー中の1週間だけでなく、この企画に申し込む段階からツアーの終わりまで、たくさんの有意義な体験をすることができました。今回の企画に尽力してくださった方々に感謝するとともに、これらの経験を活かし、これからの自分をより良くするよう努力していきたいと思えます。

兵庫県 2年 女子

台北動物園は、私の知っている動物園とは異なり生き物の生息環境を意識しているため、木々が生い茂り、動物を見つけるのに苦労した。動物園の先生から密猟される動物のほとんどが、名前のイメージから勝手に価値を推測され、薬などのために密猟されると知った。今後、密猟を減らすためには正しい知識を得てたくさんの人が共有することが重要と話があった。

夜間調査では、太田先生がタイワンアオヘビに噛まれたが、他のヘビに比べ、あごの力が弱いので痛くないらしい。これまではヘビと言えば、恐怖の対象であり、見た目だけで判断してしまい、骨格のことなど考えたことも無かったが、正しい知識を持って見ることで、とても身近に感じる事ができた。他にも、ヤスデに毒がないことを知ったから、素手で掴んで、踏まれないように道の脇に逃がしてあげた。ツルツルしたその感触は、体表に油をもっており、こんな小さな身体なのに、日本でも過去に何度も脱線事故を起こすほどの脅威を持っていると知って驚いた。

3日目のコケ採集の時は、10種類は超えるほどのコケを採取できた。苔については、盆栽のイメージしか無かったけれど、今回の実習に参加したことで、身近にある植物を植物の個性のようなものを感じてしまい、その名前を知ってあげたいと思うようになった。秋山先生が見つけたイヌビワの雄花をナイフで切ると黄色のウジ虫がたくさんいた。ウジ虫にもびっくりしたが、さらにそのウジ虫に寄生する寄生蜂いることもびっくりした。花が果実の中にあって雄花と雌花があり、実の中で育った雄のイチジクコバチが成長して身体に花粉をつけて、雌花に飛んでいき受粉させ果実を作ると知った。この事実は本を読めば得られる知識かもしれないが、実際に目の前でその事実を知った衝撃は言葉には表せないほどのものであった。集めたコケは、施設で標本を作ったが、標本は、誰がどこで（場所）いつ（時間）、採取したかが重要であり、それが標本の価値になることを知った。

6日目は、コウモリのハーブトラップの仕掛けによりコウモリが3匹以上もとれたことに驚いた。コウモリが超音波で物体を察知し、回避することができることは知っていたが、二重の網で、2本目の網をコウモリが避けられないという特性を用いて作られたことを知り、眼から鱗だった。台湾に行く前まではコウモリと言えば、空を飛んでいる物体とかバンパイアのイメージしか無かったけど、実際に目の前で見ると翼の皮がツルツルしていて、ところどころ毛が生えている様子も確認できた。

最終日のグループ発表は、台湾メンバー3人のうち2人が私と同様、1年間の海外留学経験者だったこともあり、発表は英語で行った。英語を話せることで通訳を介することなく意思疎通ができ、作業が効率よくできたことを実感した。

今後の進路についてであるが、たくさんの高校生や先生方と話すことで、理学部の生物分野に進みたいと思うようになった。生物について関心があったが、生物の中にも植物、中でもコケ専門、爬虫類の中でもカエルやヘビ、哺乳類の中でもコウモリ専門、といった類に様々な分野があることに気づいた。

「生き物調査体験ツアー in 台湾を終えて」 和歌山県 1年 女子

台湾で過ごした一週間の思い出してみると、心の底から「参加して良かった」と思えます。出発する前は不安で一杯だったのが今では懐かしく感じます。

初めての海外ということで、出国直前はかなり緊張していました。ですが、日本との大きな違いが無かったことや、何より参加者の皆や台湾の高校生の人たちが思っていたよりもずっとフレンドリーに接してくれたことが、台湾での良い思い出の一つ目になりました。七日間のことを思い返すと、溢れるほどの思い出が蘇ってきて、あんなに充実した一週間は経験したことがありません。初めての自己紹介も、初めてのフィールドワークも、他にもたくさんの「初めて」があって、あんなに楽しい一週間も経験したことがありません。

一番記憶に残っている事と言えば、蛙を初めて捕まえた事でしょうか。小学生の頃は跳んだだけで叫んでいたのが、自分の手で捕まえて、そうして手の中に居る蛙を見てみると、「なんて可愛いだろう」と衝撃を受けたのが、私の中では一番の思い出かもしれません。これだけでも台湾に来て良かった、と思いました。

他に新鮮だった事と言えば、虫が体にとまっても、誰も嫌がらなかった事かもしれません。学校でゴキブリなんて出た日には、それはもう大騒ぎになりますが、ツアーに参加していた人たちは、虫が顔にとまっても叫ぶ人なんかいませんでした。それは今思えば強烈な思い出です。腕に5cmくらいのゴキブリがとまっても叫ばなかった私も、ある意味毒されていた気がします。

思い出と言うならば、台湾のグループメンバーと一緒に夜市を食べ歩いた時の事も外せません。紹介してくれたタピオカドリンクは日本と比べられない程タピオカの噛み応えと粒の大きさが凄くて、何よりサイズが凄かった。臭豆腐を食べた時は、「異文化に触れている！」という実感がひしひしと感じられました。臭豆腐は好みが分かれる、ということが理解できた瞬間でもありました。

ツアーに参加して得た成果は非常に大きかったと実感できました。「海外へのツアー」という単語に怯みながら思い切って応募したことが、英語が苦手でも挑戦しようと思ったことが、私を少しでも成長させたんだと思えます。

6. スタッフ感想文

「第4回「高校生のための生き物調査体験ツアー in 台湾」を終えて」

兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員 秋山 弘之



普通の生き物観察から一歩進んで、専門家の指導の下に生き物調査を学ぶ、3年前の第1回当初からそんなプログラム構成は参加した高校生達にとっても好評でした。一昨年の第2回開催は、強い台風の影響で台湾行き飛行機が飛ばず、しかたなく日程を短縮しての実施となり、自然が相手のこととは言え、今後課題を残す結果となってしまいました。昨年の第3回そして今年第4回は天候に恵まれ無事すべての日程を終えることができました。特に今年は2つの大きな台風の合間の晴天で実施できたことはとても幸運でありました。

日本人高校生だけでなく台湾からも20名の高校生と一緒に参加して、計画されていたプログラム実施しました。台北市内にある動物園では夜の観察、コウモリトラップの設置と捕獲されたコウモリの観察、そして吐き戻しによるキノボリトカゲの食性調査法の見学などを実施しました。標高900mの涼しい東眼山の宿舎では昼間は植物採集と昆虫、特に蝶類の観察、夜はライトトラップ、夜のカエルの鳴き声観察を経験できました。今年は大型の甲虫もライトトラップに飛来してくれました。私は植物分類が専門で、植物を研究する人は普段夜に出歩くことがないので、夜の観察はとても興味深い経験でした。コケ植物とキノコの観察をプログラムに取り入れたのですが、生徒達に評判が良かったのは野生のバナナと栽培バナナの比較、イヌビワの仲間に見られる特殊な花序（果囊）の観察、イヌビワとイヌビワコバチの共進化の解説でした。コケ植物は顕微鏡がない環境ではなかなか難しく、どう発展させるかは今後の課題です。植物全般については、出会った種類についての詳しい観察ノートをつくり、事後学習会で生徒達に配布しました。台湾の植物をしっかりと復習してもらおう機会になったのではないかと思います。

これもツアーの大きな目的の一つである、日台の高校生間の国際交流も大いに盛り上がりました。お互いの意志疎通のためにはたとえ英語や中国語が得意でなくてもとりあえず話しかけてみる、そんな積極性が大切なことにも、貴重な体験を通じて実感してくれたのではないのでしょうか。今年はけん玉と折り紙の達人が参加高校生の中にいましたので、かれらのパフォーマンスも大好評でした。

台湾ツアー本番だけでなく、事前説明会、事前・事後学習会を通じて、参加した高校生の皆さんとは多くの時間を共有することができました。今後も生き物に深く関わっていかれることを切に願います。

最後になりましたが、金仕謙園長をはじめとする台北市立動物園の職員の皆様、コウモリの解説をしていただいた特有生物研究保育中心の鄭錫奇先生と学生の皆様、東眼山国家森林遊楽区のスタッフの方々にはたいへん御世話になりました。おかげさまで私たち日本側の研究員はそれぞれ専門の分野の説明に集中することができました。ありがとうございます。

第4回「高校生のための生き物調査体験ツアー in 台湾」で新たに学んだこと 兵庫県立人と自然の博物館 研究部長 太田 英利



野生生物の多様性や生態などを研究課題とする研究者・学徒にとって、野外に出かけて生物の調査や観察を行い、また実物を前に専門性を異にする他の研究者と議論を交わす機会の多い本ツアーでは、毎回、私自身にとっても驚くような発見があります。今回の最大の“新発見”は、コウモリについてのことでした。

ツアーの終盤に台北市立動物園内で実施した、ハープトラップを使ったコウモリ類の捕獲・観察で、赤茶色と黒色をした美しいコウモリが捕まったのは、皆さん覚えているでしょう。特徴的な体色からこのコウモリは、コウモリが専門ではない私でもすぐ、日本領内では対馬だけに少数が生息する絶滅危惧種クロアカコウモリ *Myotis formosus* であることがわかりました。ところが今回ハープトラップの指導とコウモリの解説のため台湾中部の台湾特有生物研究保育中心 (Taiwan Endemic Species Research Center) からわざわざ来てくださった鄭錫奇先生 (Dr. Hsi-chi Cheng) が口にした学名は *Myotis rufoniger* でした。この種小名はラテン語で“赤くて黒い”という意味なので、和名のクロアカコウモリに（色の順番は逆なもの）合います（ちなみに“*formosus*”は“美しい”の意味です）。しかし確かこれら二つの種名は同物異名の関係にあり、先にこのコウモリのものとして出版されたのは“*formosus*”だったはずなので、国際動物命名規約が定める“先取権の原則”によりクロアカコウモリの学名は *M. formosus* のはずでした。実際、環境省のレッドデータブックをはじめ、日本国内で出回っているコウモリを扱ったほぼ全ての図鑑・書籍で、クロアカコウモリにはこの学名が使われています（ググってみてください）。

そこでこの疑問について鄭先生に尋ねてみると、「最近林良恭先生 (Prof. Liang-kong Lin: 注、本ツアーでも過去に何度もお世話になりました) らの研究チームが、細胞の核やミトコンドリアにあるDNAの塩基配列データをもとに系統解析を実施し、また各地で採集された標本の形態的特徴を詳細に再検討した結果、永年にわたり異物同名とされていた *M. formosus* と *M. rufoniger* が、それぞれ別の独立種を指すのがわかった」とのことでした。あわてて調べてみると、確かに林先生らによる台湾産ホオヒゲコウモリ属 (*Myotis*) の系統分類を扱った論文が、2015年に分類学の専門国際誌に論文が公表されていました。そしてその中には、上の2つの名前に対応する標本が台湾内の隣接した場所から採集されたこと、にもかかわらず系統樹上の異なる場所に位置づけられたこと、が明記されていました。つまり両者は、確かに異なる独立種ということでした。2種のうち今回のツアーでも捕獲され、また日本の対馬にも分布する（よってクロアカコウモリの和名に対応する）方は、体色等の特徴から *M. rufoniger* で間違いありませんでした。

分類の変更のきっかけとなった2015年の林先生らによる論文は、残念ながら関連分野の日本の研究者にはまだほとんど知られていないようで、上述のように国内ではクロアカコウモリに依然、*Myotis formosus* の学名が使われています。

今回、クロアカコウモリの実物を手にしつつ鄭先生のお話を伺う機会をもてたのは、私自身にとって非常に有意義でした。日本国内での、この絶滅危惧種に対する学名の誤用の継続については、私が今後、しかるべき専門家各位に指摘することで、訂正されてゆくことでしょう。

以上、専門家にとっても本ツアーが、貴重な学術的知見を学ぶ機会に満ちた素晴らしいものであることが、少しだけ実感いただけただけでしょうか？

「第4回「高校生のための生き物調査体験ツアー in 台湾」を終えて」

兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員 池田 忠広



高校生が、海外旅行、ホームステイなどをする機会は国際化の傾向から我々の時代に比べ格段に増えていると思います。それらは語学や文化の理解・向上という面では大きな役割を果たすかもしれません。ですが、これらでは「生き物好き」の好奇心をなかなか満たすことはないでしょう。本ツアーはそんな「生き物」に対する好奇心をくすぐり、単に生物愛を深めるだけでなく、専門家の指導のもと生物を観察し学ぶことが出来る数少ないツアーの一つかと思っています。私は三回目の参加になりますが、毎回学ぶことがあり、高校生と同様に新たな刺激を得ています。特に今回のツアーは天候にも恵まれ、いつもに増して充実した内容だったと思います。

本ツアーには、コケ植物・キノコ、動物全般、鳥類、爬虫類・両生類を専門とする研究員が引率し、台湾動物園スタッフの協力のもと、東眼山・台湾動物園での動植物観察、コケ類の採集・標本づくり、ハーブトラップによるコウモリの捕獲・生体観察など多岐にわたるプログラムが実施されました。私は昨年同様、爬虫類・両生類を担当し、カエル類で13種、カメ類1種、トカゲ類7種、ヘビ類で8種、計29種の爬虫両生類を観察することが出来ました。生徒の中には、スタッフの指導のもとアカマダラ（無毒蛇）のハンドリングを試み、うっかり噛まれた人もいましたが、それなりに痛いはずなのに何故か嬉しそうな表情を浮かべていたこと、生徒の生物愛を感じとても印象深かったです（もう咬まれないように注意してくださいね）。残念ながら、台湾の代表的な毒蛇であるアマガサヘビは今回目にすることが出来ませんでした。それも飼育下ではなく自然状況での生物観察にこだわる本ツアーの特色かと思っています。

上記の動植物観察に加え、本ツアーの大きな目的となっているのが、台湾の高校生との交流です。今回は交流のために一定の時間が設けられ、高校生達は最初こそ緊張しているようでしたが、徐々に打ち解けている様子がうかがわれました。中には、日本の古来の遊びであるけん玉を披露する生徒や、複雑な折り紙などお土産に持参する生徒など、それぞれの方法で非常に意義深い交流が出来ていたかと思っています。私は人との出会いは人生を豊かにするものと考えています。今後もこの出会いを大切に、それぞれ交流が続くことを願っています。

本ツアーで学んだこと、印象にのこったことはそれぞれ違うと思います。ただ一つ言えることは、帰国時の皆さんは晴れ晴れした表情をしており、それぞれ大切な何かを学んだかと思えます。本ツアーで得た様々な経験や学びが、生徒の皆さんの人生を豊かにし、人生の糧になれば幸いです。

鳥類の講師から見た「高校生のための生き物調査ツアー in 台湾」

兵庫県立人と自然の博物館 研究員 布野 隆之



高校生のための生き物調査ツアー in 台湾は、平成 28 年にスタートした国際交流事業である。私は鳥類を担当する講師として本事業に参加した。本稿では、鳥類の講師から見た高校生のための生き物調査ツアー in 台湾について記載したい。

台湾における鳥類の種数は 650 種であり、日本の値 (630 種) と大差はない。しかし、台湾の国土が日本の 10 分の 1 であることを考慮すると、同国の面積当たりの鳥類種数は、日本に比べて著しく高いことが伺える。これは、台湾が日本に比べて鳥類の観察が容易であり、本事業の参加対象者である高校生に最適なフィールドであることを意味している。実際に、はじめての鳥類調査であったにもかかわらず、参加者は 2018 年度のツアーでは 31 種、2019 年度のツアーでは 27 種の鳥類を観察することができた。

台湾で鳥類を観察する利点は他にもある。鳥類を観察する距離が 20m 程度と非常に短く、加えて、5 分～20 分におよぶ長時間の行動観察を頻繁に行えることである。本年度の参加者は、Taiwan Barbet (タイワンゴシキドリ) の採餌行動をはじめ、Black bulbul (シロガシラクロヒヨドリ) のディスプレイなど、鳥類の様々な行動を詳細に観察することができた。また、観察時間中に、その行動が有する生態的意義を詳しく解説することにより、本来、講義で学ぶ内容を観察しながら学習することもできた。(例えば、鳥類が果実を摂食して植物の種子を散布することにより、台湾の豊かな森林が維持されていることなどを解説。)

以上のように、台湾では、鳥類をはじめて観察する高校生が、鳥の行動とその生態的意義を同時に学習するツアーを開催することができる。これが、本事業の最大の利点と思われた。

冒頭で述べたように、日本は面積当たりの鳥類の種数が少ない。このため、日本における多くの観察会は「鳥を探すこと」が主な活動となり、「行動観察」や「生態学習」に至らないことが多い。この実態を踏まえると、来年度以降も、多くの高校生に本事業に参加して頂き、鳥類の「観察」と「学習」を通して、生き物に関心を持って頂けたら幸いである。

最後に、本事業を実施するにあたり、台北市立動物園、東眼山国家森林遊楽区、および特有生物研究保育中心の皆様にご多大なご尽力を頂いた。ここに深く感謝の意を表する。

7. 観察できた生き物

植物（担当：秋山先生）

科・属	和名	種	中文名	観察した場所
ブドウ科セイシカズラ属	プリンセス・ヴァイン	<i>Cissus verticillata</i>	錦屏藤(蔓地榕)	動物園
シヨウガ科シユクシヤ属	ハナシユクシヤ	<i>Hedychium coronarium</i>		動物園
キツネノマゴ科オドントネマ属	ベニツツバナ	<i>Odontonema strictum</i>		動物園
スイレン科スイレン属	熱帯スイレン	<i>Nymphaea</i>		動物園
キョウチクトウ科インドソケイ属	プルメリア	<i>Plumeria</i> spp.		動物園
サトイモ科クワズイモ属	クワズイモ	<i>Alocasia odora</i>		動物園
サトイモ科ハブカズラ属	ハブカズラ	<i>Epipremnum pinnatum</i>		動物園
ガガイモ科ホヤ属	サクララン(ホヤ)	<i>Hoya carnosa</i>		動物園
トウダイグサ科オオバギ属	オオバギ(大葉木)	<i>Macaranga tanarius</i>		動物園
シダ植物	ヘゴ	<i>Cyathea spinulosa</i>	台湾紗欏	動物園
シダ植物	ヒカゲヘゴ	<i>Cyathea lepifera</i>	筆筒樹	動物園
シダ植物	リュウビンタイ	<i>Angiopteris lygodiiifolia</i>	観音座蓮	動物園
シダ植物	オオタニワタリ	<i>Asplenium antiquum</i>		動物園
シダ植物	カニクサ	<i>Lygodium japonicum</i>	海金沙	動物園
シダ植物	マメツタ	<i>Lemmaphyllum microphyllum</i>	伏石蕨	動物園
イネ科タケ亜科	パンプー	<i>Gigantochloa</i>		動物園
アカネ科イクソラ属	サンタンカ	<i>Ixora</i> spp.		動物園
クマツヅラ科ランタナ属	ランタナ	<i>Lantana camara</i>		動物園
クマツヅラ科	ボタンクサギ	<i>Clerodendrum bungei</i>		動物園
クマツヅラ科	フトボナガボソウ	<i>Stachytarpheta indica</i>	假馬鞭	動物園
クワ科イチジク属	イヌビワ	<i>Ficus erecta</i>	矮小天仙果	動物園・東眼山
サトイモ科	ヤマコンニャク	<i>Amorphophalus hirtus</i>		東眼山
ヒノキ科	台湾杉	<i>Taiwania cryptomerioides</i>	台湾杉	東眼山
ヒノキ科	広葉杉	<i>Cunninghamia lanceolata</i>	広葉杉	東眼山
アゼナ科	ツルウリクサ	<i>Torenia concolor</i>	単色蝴蝶草	東眼山
トウダイグサ科	アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>	赤芽樹、野梧桐	動物園・東眼山
イラクサ科ハドノキ属		<i>Oreocnide</i>		東眼山
バショウ科バショウ属	バナナ(野生2倍体)	<i>Musa</i> spp.	野生香蕉	動物園・東眼山
ウルシ科マンゴー属	マンゴー	<i>Mangifera indica</i>	檬果、芒果	昼ご飯のフルーツ
ウリ科スイカ属	スイカ	<i>Citrullus lanatus</i>	西瓜&黄瓢西瓜	昼ご飯のフルーツ
バラ科モモ属	桃	<i>Amygdalus persica</i>		昼ご飯のフルーツ
パパイヤ科パパイヤ属	パパイヤ	<i>Carica papaya</i>	蕃瓜樹、木瓜	昼ご飯のフルーツ
ムクロジ科レイシ属	レイシ(ライチ)	<i>Litchi chinensis</i>	荔枝	昼ご飯のフルーツ
ムクロジ科ムクロジ属	リュウガン	<i>Dimocarpus longan</i>	龍眼	昼ご飯のフルーツ
サボテン科ヒモサボテン属	ドラゴンフルーツ	<i>Hylocereus undatus</i>	火龍果	昼ご飯のフルーツ
フトモモ科	グアバ	<i>Psidium guajava</i>	蕃石榴	昼ご飯のフルーツ
クワ科イチジク属	ベンガルボダイジュ	<i>Ficus benghalensis</i>	孟加拉榕	閑渡自然公園
クワ科イチジク属	ガジュマル	<i>Ficus microcarpa</i>	榕樹	動物園・閑渡自然公園
クワ科イチジク属	イヌビワ	<i>Ficus erecta</i>	午奶榕	動物園・東眼山・閑渡自然公園
クワ科イチジク属	アコウ	<i>Ficus subpisocarpa</i>	雀榕	閑渡自然公園
サガリバナ科サガリバナ属	サガリバナ	<i>Barringtonia racemosa</i>	穗花棋盤脚	閑渡自然公園
トベラ科トベラ属	トベラ	<i>Pittosporum tobira</i>	臺灣海桐	閑渡自然公園
キョウチクトウ科ミフクラギ属	ミフクラギ (オキナウキョウチクトウ)	<i>Cerbera manghas</i>	海檬果	閑渡自然公園
キョウチクトウ科		<i>Dregea volubilis</i>	華他卡藤	閑渡自然公園
シクンシ科モモタマナ属	モモタマナ	<i>Terminalia catappa</i>	大葉欏仁	閑渡自然公園
マメ科デイゴ属	デイゴ	<i>Erythrina variegata</i>	刺桐	閑渡自然公園
ムクロジ科モクゲンジ属	タイウンモクゲンジ	<i>Koelreuteria henryi</i>	臺灣欏樹	閑渡自然公園
アオイ科サキシマスオウノキ属	サキシマスオウノキ	<i>Heritiera littoralis</i>	銀葉樹	閑渡自然公園
モクレン科オガタマノキ属	ギンコウボク	<i>Michelia alba</i>	白玉蘭	街中
	ノアサガオ	<i>Ipomoea congesta (indica)</i>		高速道路沿い
	モミジヒルガオ	<i>Ipomoea cairica</i>		高速道路沿い
モクセイ科ソケイ属	ジャスミン、マツリカ	<i>Jasminum sambac</i>	茉莉花	ジャスミン茶
ユリ科ワスレグサ属	ヤブカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i>	金針菜	お昼ご飯のスープの具材
ヒメハギ科	コバナヒメハギ (カスミヒメハギ)	<i>Polygala paniculata</i>		動物園「黒松沙土」の香り

科・属	和名	種	中文名	観察した場所
コケ植物	マキノゴケ	<i>Makinoa crispata</i>		東眼山
コケ植物	ケゼニゴケ	<i>Dumortiera hirsuta</i>		東眼山
コケ植物	カタハマキゴケ	<i>Hyophila involuta</i>		東眼山
コケ植物	アラハシラゴケ	<i>Leucobryum bowringii</i>		東眼山
コケ植物	クモノスゴケ	<i>Pallavicinia subciliata</i>		東眼山
コケ植物	ホウライスギゴケ	<i>Pogonatum cirratum</i>		東眼山
コケ植物	ヒメスギゴケ	<i>Pogonatum neesii</i>		東眼山
コケ植物	キヨスミイトゴケ	<i>Neodictyella flagellifera</i>		東眼山
コケ植物	ツノゴケの仲間	<i>Anthoceros sp.</i>		東眼山

科・属	和名	種	中文名	観察した場所
菌類(キノコ)	アラゲキクラゲ	<i>Auricularia polytricha</i>		東眼山
菌類(キノコ)	ナギナタダケ	<i>Clavulinopsis fusiformis</i>		東眼山
菌類(キノコ)	エリマキツチグリ	<i>Geastrum triplex</i>		東眼山
菌類(キノコ)	オオシロアリタケ	<i>Macrolepiota albuminosa</i>		東眼山
菌類(キノコ)	マゴジャクシ	<i>Ganoderma ne-japonicum</i>		東眼山
菌類(キノコ)	コマタケ	<i>Amauroderma subrugosum</i>		東眼山
菌類(キノコ)	マンネンタケ、霊芝	<i>Ganoderma lucida</i>		東眼山
菌類(キノコ)	カワラタケの仲間	<i>Trametes cf. versicolor</i>		東眼山
菌類(キノコ)	アリノタイマツ	<i>Multiclavula clara</i>		東眼山
地衣類	マツゲゴケ	<i>Rimelia clavulifera</i>		東眼山
地衣類	サルオガセ類	<i>Usnea sp.</i>		東眼山

昆虫 (担当:太田先生、山内先生)

昆虫類

目	科	和名	学名	第3回観察種	第4回観察種
イシノミ目	イシノミ科	イシノミ科の1種	Machilidae gen. sp.	○	
トンボ目	トンボ科	アカスジベッコウトンボ	<i>Neurothemis ramburii</i>	○	○
	トンボ科	オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum triangulare</i>	○	○
	トンボ科	ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>	○	○
	トンボ科	オキナフチョウトンボ	<i>Rhyothemis variegata imperatrix</i>		○
	トンボ科	ハラボソトンボ	<i>Orthetrum sabina sabina</i>		○
	トンボ科	ベニトンボ	<i>Trithemis aurora</i>		○
	サナエトンボ科	大型のサナエトンボの1種	Gomphidae gen. sp.	○	○
	サナエトンボ科	台湾ウチワヤンマ	<i>Ictinogomphus pertinax</i>		○
	モノサシトンボ科	ルリモントンボの1種	<i>Coeliccia</i> sp.		○
カワトンボ科	シロオビカワトンボ	<i>Psolodesmus mandarinus</i>		○	
ゴキブリ目	オガサワラゴキブリ科	オガサワラゴキブリ種群	<i>Pycnoscelus</i> sp.	○	
	ゴキブリ科	クロゴキブリ?	? <i>Periplaneta fuliginosa</i>	○	○
	ゴキブリ科	コワモンゴキブリ	<i>Periplaneta australasiae</i>	○	○
	ブラベルスゴキブリ科	サツマゴキブリ	<i>Opisthopteria orientalis</i>	○	○
	マダラゴキブリ科	マダラゴキブリ属の1種	<i>Rhabdoblatta</i> sp.	○	
	マルゴキブリ科	マルゴキブリ	<i>Trichoblatta nigra</i>	○	
カマキリ目	カマキリ科	カマキリ科の1種	<i>Tenodera</i> sp.	○	○
	カマキリ科	ハラビロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i>	○	○
	カマキリ科	ヒナカマキリ	<i>Amantis nawai</i>	○	○
バッタ目	カマドウマ科	ヤエヤママダラウマ?	<i>Diestrammena iriomotensis</i>	○	○
	クサヒバリ科	クサヒバリ	<i>Paratrigonidium bifasciatum</i>	○	○
	ヒバリモドキ科	ネツタイヒバリの近縁種	<i>Homoeoxipha</i> sp.	○	
	コロギス科	コロギスの近縁種	<i>Prosopogryllacris</i> sp.	○	○
	ヒシバッタ科	トゲヒシバッタ類の1種	<i>Criotettix</i> sp.	○	○
	バッタ科	台湾モリバッタ	<i>Traulia ornata</i>	○	○
	キリギリス科	ヒサゴクサキ属の1種	<i>Palaeoagraecia</i> sp.	○	
	キリギリス科	台湾クツムシ	<i>Mecopoda elongata</i>	○	○
キリギリス科	台湾クダマキモドキ	<i>Ruidocollaris truncatolobata</i>		○	
ナナフシ目	コブナナフシ科	コブナナフシ属の1種	<i>Datames</i> sp.	○	○
	ナナフシ科	ナナフシ類	Phasmatidae gen. spp.	○	
ハサミムシ目	クギヌキハサミムシ科	キガシラハサミムシの近縁種	<i>Paratimomenus</i> sp.	○	
カメムシ目	アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ	<i>Geisha distinctissima</i>	○	○
	アオバハゴロモ科	ヤエヤマエボシハゴロモの近縁種	<i>Tonga fusiformis</i>	○	○
	ハゴロモ科	アミガサハゴロモ類	<i>Pochazia</i> sp.	○	
	ハゴロモ科	ヒトツメハゴロモ	<i>Euricania ocellus</i>	○	
	ビワハゴロモ科	ワタナベテングビワハゴロモ	<i>Fulgora watanabei</i>		○
	セミ科	ソウザンヒグラシ?	? <i>Tanna sozanensis</i>	○	
	セミ科	ハゴロモゼミ	<i>Chremistica ochracea</i>	○	
	セミ科	タカサゴクマゼミ	<i>Cryptotympana takasagona</i>	○	○
	セミ科	台湾クマゼミ	<i>Cryptotympana holsti</i>	○	○
	セミ科	台湾ヒグラシ	<i>Componia yayeyamana</i>	○	○
	コガシラアワフキムシ科	ベニフコガシラアワフキ	<i>Cosmoscarta uchidae</i>	○	○
	カイガラムシ科	カイガラムシ類の1種	Coccoidea gen. sp.	○	○
	ツチカメムシ科	ツチカメムシ科の1種	Cydnidae gen. sp.	○	○
	ナガカメムシ科	ナガカメムシ科の1種	Lygaeidae gen. sp.	○	
	オオカメムシ科	オオカメムシ科の1種	<i>Tessarotoma papillosa</i>	○	
	カメムシ科	クチブツカメムシ類の1種	<i>Eocanthecona formosa</i>	○	
	キンカメムシ科	アカギカメムシ	<i>Cantao ocellatus</i>	○	○
	サシガメ科	サシガメ科の1種	<i>Epidaus</i> sp.	○	○
	タイコウチ科	タイコウチ	<i>Laccotrephes japonensis</i>	○	○
	カスミカメムシ科	台湾ケブカカスミカメ?	? <i>Tingitum formosanum</i>	○	
オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ	<i>Physopelta gutta</i>	○	○	
ホソヘリカメムシ科	ヒロホソヘリカメムシ	<i>Daclera levana</i>	○	○	
アミメカゲロウ目	クサカゲロウ科	クサカゲロウ科の1種	<i>Ankylopteryx</i> sp.	○	○
	ツノトンボ科	ツノトンボ科の1種	? <i>Suhpalacsa formosana</i>	○	○
	ヒロバカゲロウ科	ヤマトヒロバカゲロウ	<i>Spilosmylus tuberculatus</i>	○	○
ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヒメヘビトンボ	<i>Protohermes costalis</i>	○	
	ヘビトンボ科	モンヘビトンボの近縁種	<i>Neochauliodes meridionalis</i>	○	○
コウチュウ目	オサムシ科	ゴミムシ類の1種	Carabidae gen. sp.	○	
	ハネカクシ科	ツツハネカクシ亜科の1種	Osoriinae gen. sp.	○	
	クワガタムシ科	シェンクリンオオクワガタ	<i>Dorcus schenklingi</i>	○	
	クワガタムシ科	台湾ヒラタクワガタ	<i>Dorcus titanus sika</i>	○	○
	クワガタムシ科	台湾ネブトクワガタ	<i>Aegus laevicollis formosae</i>	○	○
	クワガタムシ科	シカクワガタ	<i>Rhaetulus crenatus</i>	○	
	クワガタムシ科	オニツヤクワガタ台湾亜種	<i>Odontolabis siva parryi</i>		○
	コガネムシ科	シロテンハナムグリ	<i>Protaetia orientalis</i>	○	○
	コガネムシ科	台湾アオドウガネ	<i>Anomala expansa</i>	○	○
コガネムシ科	カンショコガネ類の1種	<i>Apogonia</i> sp.	○		

目	科	和名	学名	第3回観察種	第4回観察種	
コウチュウ目	コガネムシ科	カブトムシ	<i>Trypoxylus dichotomus</i>	○	○	
	タマムシ科	ヤマトタマムシ	<i>Chrysochroa fulgidissima</i>	○	○	
	コメツキムシ科	フタモンウバタマコメツキ?	? <i>Cryptalaus larvatus</i>	○		
	ホタル科	ホタル類	Lampyridae gen. sp.	○	○	
	ツチハンミョウ科	タイワンマメハンミョウ	<i>Epicauta hirticornis</i>	○	○	
	テントウムシ科	アミダテントウ	<i>Amida tricolor</i>	○		
	オオキノコムシ科	オオキノコムシ亜科の1種	Erotylinae gen. sp.	○		
	ゴミムシダマシ科	ゴミムシダマシ類	Tenebrioninae gen. spp.	○	○	
	ゴミムシダマシ科	ハムシダマシ亜科の1種	Lagriinae gen. sp.	○		
	カミキリムシ科	キボシカミキリ	<i>Psacotheta hilaris</i>	○	○	
	カミキリムシ科	ヤハズカミキリ?	? <i>Uraecha bimaculata</i>	○	○	
	カミキリムシ科	ピロウドカミキリ類の1種	Lamiinae gen. sp.	○		
	カミキリムシ科	シロスジカミキリ属の1種	Batocera sp.		○	
	ハムシ科	クビボソハムシ亜科の1種	Criocerinae gen. sp.	○		
	ハムシ科	ウリハムシ類の1種	Galerucinae gen. sp.	○	○	
	ハムシ科	サルハムシ亜科の1種	Eumolpinae gen. sp.	○		
	ハムシ科	ハムシ亜科の1種	Chrysomelinae gen. sp.	○	○	
	ハムシ科	ノミハムシ亜科の1種	Alticinae gen. sp.	○		
	ハムシ科	カメノコハムシ亜科の1種	Cassidinae gen. sp.	○		
	ゾウムシ科	オトシブミ類の1種	Curculionoidea gen. sp.	○	○	
	ゾウムシ科	ゾウムシ類の1種	Curculionoidea gen. sp.	○	○	
	オサゾウムシ科	オサゾウムシ類の1種	Rhynchophoridae gen. sp.	○		
	ハチ目	コマユバチ科	コマユバチ科の1種	Braconidae gen. sp.	○	
ヒメバチ科		ヒメバチ類	Ichneumonidae gen. sp.	○		
ヤセバチ科		ヤセバチ科の1種	<i>Evania</i> sp.	○		
アナバチ科		ジガバチ亜科の1種	Sceliphroninae gen. sp.	○	○	
スズメバチ科		ツマアカスズメバチ	<i>Vespa velutina</i>	○	○	
スズメバチ科		アシナガバチ亜科の1種	Polistinae gen. sp.	○	○	
アリ科		アリ類	Formicidae gen. sp.	○	○	
ミツバチ科		ミツバチ類の1種	<i>Apis</i> sp.	○	○	
ハエ目	ガガンボ科	ガガンボ科の1種	Tipulidae gen. sp.	○	○	
	チョウバエ科	チョウバエ科の1種	Psychodidae gen. sp.	○	○	
	アシナガバエ科	アシナガバエ科の1種	Dolichopodidae gen. sp.	○	○	
	オドリバエ科	オドリバエ類	Empididae gen. spp.	○		
	アブ科	アブ属の1種	<i>Tabanus</i> sp.	○	○	
	ミズアブ科	ヒメキイロコウカアブの近縁種	<i>Pteticus</i> sp.	○		
	ミズアブ科	キイロコウカアブ?	? <i>Pteticus aurifer</i>	○		
	ミズアブ科	アメリカミズアブ?	? <i>Hermetia illucens</i>	○		
	ハナアブ科	ハナアブ科の1種	Syrphidae gen. sp.	○	○	
	アシナガヤセバエ科	アシナガヤセバエ科の1種	Neriidae gen. sp.	○	○	
チョウ目	シマバエ科	シマバエ科の1種	Lauxaniidae gen. sp.	○		
	クロバエ科	ミドリバエ類の1種	<i>Isomyia</i> sp.	○		
	ヤドリバエ科	ヤドリバエ類	Tachinidae gen. spp.	○		
	トビケラ目	トビケラ目の1種	Trichoptera gen. sp.	○		
	チョウ目	アゲハモドキガ科	タイワンアゲハモドキ	<i>Epicopeia formosana</i>		○
		イラガ科	イラガ科の1種	<i>Cania heppneri</i>	○	○
		イラガ科	ヒメクロイラガ	<i>Scopelodes contractus</i>	○	
		イラガ科	イラガ科の1種	<i>Monema rubriceps</i>	○	
		マダラガ科	クロツバメ台湾亜種	<i>Histia flabellicornis ultima</i>	○	○
		ボクトウガ科	ボクトウガ科の1種	<i>Phragmataecia cinnamomea</i>	○	○
		ハマキモドキガ科	ハマキモドキガ科の1種	<i>Choreutis amethystodes</i>	○	○
		ニセハマキガ科	ニセハマキガ科の1種	<i>Alampla arcifraga</i>	○	
		カレハガ科	ムラクモカレハ?	? <i>Lebeda nobilis</i>	○	○
		ヤママユガ科	クスサン	<i>Caligula japonica</i>	○	
		スズメガ科	タカムクホソバズメ	<i>Amplypterus mansonii takamukui</i>	○	
		スズメガ科	アジアホソバズメ	<i>Ambulyx sericeipennis</i>	○	
		スズメガ科	オバナワズメ	<i>Hippotion velox</i>	○	
		スズメガ科	クルマスズメ台湾亜種	<i>Ampelophaga rubiginosa myosotis</i>	○	
		スズメガ科	フリッツェホウジャク	<i>Macroglossum fritzei</i>	○	
		スズメガ科	クチバズメ	<i>Marumba sperchius</i>		○
		スズメガ科	ミドリズメ	<i>Pergesa acteus</i>		○
		シャクガ科	ツバメエダシャク類の1種	<i>Ourapteryx</i> sp.	○	○
		シャクガ科	オオゴマダラエダシャク	<i>Paraperchnia giraffata</i>		○
		ドクガ科	ドクガ科の1種	<i>Arctornis cygna</i>	○	○
		ドクガ科	ゴマフリドクガ?	? <i>Euproctis scintillans</i>	○	
		ヒトリガ科	ムラマツカノコ	<i>Syntomoides imaon</i>	○	○
		ヒトリガ科	コケガ亜科の1種	<i>Mitochrista delineata</i>	○	
		ヒトリガ科	アカスジシロコケガ類の1種	<i>Cyana</i> sp.	○	
		ヒトリガ科	ウスバフタホシコケガ	<i>Schistophleps bipuncta</i>	○	

目	科	和名	学名	第3回観察種	第4回観察種
チョウ目	ヒトリガ科	ルリモンホソバ	<i>Chrysaeglia magnifica taiwana</i>	○	○
	ヒトリガ科	トラフヒトリ台湾亜種	<i>Aglaomorpha histrio formosana</i>	○	○
	ヒトリガ科	ハイイロヒトリ	<i>Cretonotos transiens</i>	○	
	ヒトリモドキガ科	シロスジヒトリモドキ	<i>Asota heliconia</i>	○	
	ヒトリモドキガ科	ホシヒトリモドキ	<i>Asota plana</i>	○	○
	ヒトリモドキガ科	キイロヒトリモドキ	<i>Asota egens</i>	○	○
	ヤガ科	ヤガ科の1種	<i>Ericia</i> sp.	○	
	ヤガ科	ヤガ科の1種	<i>Erygia</i> sp.	○	○
	ヤガ科	アツバ亜科の1種	<i>Bomolocha</i> sp.	○	
	ヤガ科	カギモンハナオイアツバ	<i>Cidariplura signata</i>	○	
	ヤガ科	ハネブタアツバ?	? <i>Hydrillodes uenoi</i>	○	
	ヤガ科	セプトコヤガ	<i>Eublemma quadrapex</i>	○	○
	ヤガ科	ツキワクチバ	<i>Artena dotata</i>	○	
	ヤガ科	ヤガ科の1種	<i>Calyptra</i> sp.	○	○
	ヤガ科	ヤガ科の1種	<i>Pangrapta</i> sp.	○	
	ヤガ科	アカキリバ?	? <i>Gonitis mesogona</i>	○	
	ヤガ科	オオシロテンアオヨトウ	<i>Trachea punkikonis</i>	○	○
	ヤガ科	ネジロフトクチバ	<i>Serodes campanus</i>	○	
	ヤガ科	ハイイロコヤガ?	? <i>Mataeomera obliquisigna</i>	○	
	ヤガ科	ミツボシツマキリアツバの近縁種	<i>Pangrapta</i> sp. near <i>vasava</i>	○	
	セセリチョウ科	ホソバセセリ?	? <i>Isoteinon lamprospilus</i>	○	○
	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata</i>		○
	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ台湾亜種	<i>Graphium sarpedon connectens</i>	○	○
	アゲハチョウ科	ミカドアゲハ	<i>Graphium doson</i>		○
	アゲハチョウ科	アカネアゲハ	<i>Papilio rumanzovia</i>	○	○
	アゲハチョウ科	タイワンタイマイ	<i>Graphium cloanthus</i>		○
	アゲハチョウ科	ジャコウアゲハ	<i>Atraphaneura alcinous</i>		○
	アゲハチョウ科	ベニモンアゲハ	<i>Pachilopta aristrochiae</i>		○
	アゲハチョウ科	ナガサキアゲハ	<i>Papilio memnon</i>		○
	アゲハチョウ科	タイワンカラスアゲハ	<i>Papilio dialis</i>		○
	アゲハチョウ科	クロアゲハ	<i>Papilio protenor</i>		○
	アゲハチョウ科	オナシアゲハ	<i>Papilio demoleus</i>		○
	シロチョウ科	タイワンシロチョウ	<i>Appias lycida</i>	○	○
	シロチョウ科	タイワンモンシロチョウ	<i>Pieris canidia</i>	○	○
	タテハチョウ科	マルバネルリマダラ	<i>Euploea eunice</i>	○	○
	タテハチョウ科	ツマムラサキマダラ	<i>Euploea mulciber</i>	○	○
	タテハチョウ科	ヒメコモンアサギマダラ	<i>Parantica aglea</i>	○	○
	タテハチョウ科	コモンアサギマダラの1種	? <i>Parantica aglea</i>		○
	タテハチョウ科	リュウキュウアサギマダラ	<i>Ideopsis similis</i>	○	○
	タテハチョウ科	ヤエヤマムラサキ	<i>Hypolimnas anomala</i>		○
	タテハチョウ科	リュウキュウムラサキ台湾亜種	<i>Hypolimnas bolina kezia</i>		○
	タテハチョウ科	オオゴマダラ	<i>Idea leuconoe</i>	○	○
	タテハチョウ科	タカサゴイチモンジ	<i>Euthalia formosana</i>	○	
	タテハチョウ科	アオタテハモドキ	<i>Junonia orithya</i>	○	○
	タテハチョウ科	クロタテハモドキ	<i>Junonia iphita</i>	○	○
	タテハチョウ科	コノハチョウ	<i>Kallima inachus</i>	○	○
	タテハチョウ科	イシガケチョウ	<i>Cyrestis thyodamas</i>	○	○
	タテハチョウ科	ヒメキミスジ	<i>Symbrenthia hypselis</i>	○	
	タテハチョウ科	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius</i>	○	○
	タテハチョウ科	キマダラヒカゲ属の1種	<i>Neope</i> sp.	○	
	タテハチョウ科	ウラキマダラキカゲ	<i>Neope muirheadi</i>	○	○
	タテハチョウ科	タイワンウラナミジャノメ	<i>Ypthima multistriata</i>	○	○
タテハチョウ科	ルリモンジャノメ	<i>Elymnias hypermnestra</i>	○	○	
タテハチョウ科	ワモンチョウ台湾亜種	<i>Stichopthalma howqua formosana</i>	○	○	
タテハチョウ科	カバマダラ	<i>Danaus chrysippus</i>		○	
タテハチョウ科	スジグロカバマダラ	<i>Salatura genutia</i>		○	
タテハチョウ科	タイワンキマダラヒカゲ	<i>Neope bremeri</i>		○	
シジミチョウ科	シロウラナシジミ	<i>Jamides alecto</i>	○		
シジミチョウ科	ヒロシジミ	<i>Deudorix epjarbas</i>	○	○	
シジミチョウ科	ウラナシジミの1種	<i>Jamides</i> sp.		○	
シジミチョウ科	ヤマトシジミ?	? <i>Zizeeria maha</i>	○	○	
テングチョウ科	テングチョウ	<i>Libythea celtis</i>		○	

昆虫以外の節足動物

目	科	和名	学名	第3回観察種	第4回観察種
ゲジ目	ゲジ科	オオゲジ	<i>Thereuopoda clunifera</i>	○	
オビヤスデ目	ヤケヤスデ科	ヤンバルトサカヤスデ	<i>Chamberlinius hualienensis</i>	○	○
	ハバヤスデ科	アマビコヤスデの1種	<i>Riukiaria sp.</i>		○
ザトウムシ目		ザトウムシ類	Opiliones gen. spp.	○	○
クモ目	ジョロウグモ科	オオジョロウグモ?	? <i>Nephila pilipes</i>	○	○
	アシダカグモ科	アシダカグモ類	Sparassidae gen. spp.	○	○
	カニグモ科	アズチグモ属の1種	<i>Thomisus sp.</i>	○	
	コガネグモ科	オオスミコガネグモ	<i>Argiope ocula</i>	○	○
	コガネグモ科	ナガマルコガネグモ	<i>Argiope aemula</i>	○	
	コガネグモ科	ツシマトリノフンダマシ?	? <i>Paraplectana tsushimensis</i>	○	
	コガネグモ科	アカイトリノフンダマシ?	? <i>Cyrtarachne yunoharuensis</i>	○	
	ハエトリグモ科	アダンソンハエトリ?	? <i>Hasarius adansoni</i>	○	
	ハエトリグモ科	アリグモ属の1種	<i>Myrmarachne sp.</i>	○	○
	ハエトリグモ科	シラヒゲハエトリ?	? <i>Menemerus fulvus</i>	○	
	ナガイボグモ科	ナガイボグモ?	? <i>Hersilia asiatica</i>	○	
ヒメグモ科	アカインウロウグモ	<i>Argyrodes miniaceus</i>	○	○	

軟体動物

目	科	和名	学名	第3回観察種	第4回観察種
有肺目	オナジマイマイ科	オオケマイマイ類	<i>Aegista sp.</i>	○	○

※少なくとも属レベルの同定ができたものを記載

両生類、爬虫類 (担当:池田先生)

カエル類

科	種	和名	中文名	台湾固有種	東眼山	台湾動物園
Bufoinae	<i>Bufo bankorensis</i>	バンコロヒキガエル	盤古蟾蜍	○	○	
	<i>Duttaphrynus melanostictus</i>	ヘリダロヒキガエル	黑眶蟾蜍			○
Dicroglossidae	<i>Limnonectes fujianensis</i>	フーチャンオオアマガエル	福建大頭蛙		○	
	<i>Fejervarya multistriata</i> or <i>kawamurai</i>	スマガエル	澤蛙		○	
Ranidae	<i>Nidirana adenopleura</i>	タイワンハラブチガエル	腹斑蛙			○
	<i>Hylarana guentheri</i>	ギョウツアーガエル	貢德氏赤蛙			○
	<i>Hylarana latouchii</i>	ラトウチガエル	拉都希氏赤蛙		○	○
	<i>Odorrana swinhoana</i>	スウインホーガエル	斯文豪氏赤蛙	○	○	○
Rhacophoridae	<i>Kurixalus eiffingeri</i>	アイフィンガーガエル	艾氏樹蛙		○	
	<i>Kurixalus idiootocus</i>	アイフィンガーガエルモドキ	面天樹蛙	○	○	
	<i>Polypedates braueri</i>	タイワンシロアゴガエル	布氏樹蛙			○
	<i>Polypedates megacephalus</i>	ホンコンシロアゴガエル	斑腿泛樹蛙		○	○
	<i>Rhacophorus prasinatus</i>	ヒスイガエル	翡翠樹蛙	○	○	

トカゲ類

科	種	和名	中文名	台湾固有種	東眼山	台湾動物園
Agamidae	<i>Diploderma polygonataum xanthostoma</i>	キグチキノボリトカゲ	黃口攀蜥	○	○	
	<i>Diploderma swinhonis</i>	スウインホーキノボリトカゲ	斯文豪氏攀蜥	○		○
Gekkonidae	<i>Gekko hokouensis</i>	ミナミヤモリ	鉛山壁虎			○
Lacertidae	<i>Takydromus viridipunctatus</i>	リョウハンカナヘビ	翠斑草蜥	○		○
Scincidae	<i>Plestiodon elegans</i>	アオスジトカゲ	麗紋石龍子		○	
	<i>Scincella formosensis</i>	タイワンスベトカゲ	台湾滑蜥	○		○
	<i>Sphenomorphus indicus</i>	インドトカゲ	印度蜓蜥		○	

ヘビ類

科	種	和名	中文名	台湾固有種	東眼山	台湾動物園
Colubridae	<i>Boiga kraepelini</i>	タイワンオオガシラヘビ	大頭蛇			○
	<i>Cyclophiops major</i>	タイワンオヘビ	青蛇		○	
	<i>Dinodon rufonotatum rufonotatum</i>	アカマダラ	紅斑蛇		○	○
	<i>Lycodon ruhstrati ruhstrati</i>	タイワンバイカダ	白梅花蛇			○
	<i>Oligodon formosanus</i>	タイワンククリヘビ	赤背松柏根			○
Paratidae	<i>Pareas atayal</i>	タイヤルセダカヘビ	泰雅鈍頭蛇	○	○	
Viperidae	<i>Protobothrops mucrosquamatus</i>	タイワンハブ	龜殼花			○
	<i>Trimeresurus (or Viridovipera) stejnegeri stejnegeri</i>	タイワンアオハブ	赤尾青竹絲		○	

カメ類

科	種	和名	中文名	台湾固有種	東眼山	台湾動物園
Geoemydidae	<i>Mauremys sinensis</i>	ハナガメ	班龜			○

鳥類 (担当: 布野先生)

番号	和名	学名	英名	2018年			2019年		
				東眼山	台湾動物園	台湾市内	東眼山	台湾動物園	台湾市内
1	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	Oriental honey-buzzard	○					
2	ヤマムスメ	<i>Urocissa caerulea</i>	Taiwan magpie blue-magpie, Taiwan magpie, Formosan blue magpie, Formosan Taiwan barbet	○	○		○	○	
3	タイワンゴシキドリ	<i>megalaima nuchalis</i>	Spotted dove	○	○		○	○	○
4	カノコバト	<i>Spilopelia chinensis</i>	Crested serpent eagle	○					
5	カンムリワシ	<i>Spilornis cheela</i>	Little egret	○		○			○
6	コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	Green-backed heron, Striated heron		○				○
7	ササゴイ	<i>Butorides striata</i>	Common kingfisher		○				○
8	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	Taiwan bamboo-partridge, Formosan bamboo-partridge	○			○		○
9	タイワンゴジュケイ(テツケイ)	<i>Bambusicola thoracicus sonori vox</i>	Black bulbul	○	○		○	○	
10	シロガシラクロヒヨドリ	<i>Hypsipetes leucocephalus</i>	Oriental turtle dove	○	○		○	○	○
11	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	Crested goshawk	○	○		○	○	
12	カンムリオオタカ	<i>Accipiter trivirgatus</i>	White-backed woodpecker	○					
13	オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	Grey capped woodpecker	○					
14	ハイガシラコゲラ	<i>Dendrocopos canicapillus</i>	Northern boobook	○					
15	アオバズク	<i>Ninox japonica</i>	Red callared cove		○				
16	ベニバト	<i>Streptopelia tranquebarica</i>	White-bellied green-pigeon, Japanese green-pigeon	○			○		
17	アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	Tree sparrow, Eurasian tree sparrow			○			○
18	スズメ	<i>Passer montanus</i>	Crested myna		○				○
19	ハツカチヨウ	<i>Acridotheres cristatellus</i>	Intermediate egret		○				○
20	チュウサギ	<i>Ardea intermedia</i>	Green-backed tit		○				○
21	キバラシジュウカラ	<i>Parus monticolus</i>	Jungle crow, Large-billed crow		○				○
22	ハンゾウトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	Light-vented bulbul		○				○
23	シロガシラ	<i>Pycnonotus sinensis</i>	Japanese white-eye		○				○
24	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	Eurasian magpie		○				○
25	カササギ	<i>Pica pica</i>	Gray treepie		○				○
26	タイワンオナガ	<i>Dendrocitta formosae</i>	Barn swallow		○				○
27	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	Great egret		○				○
28	ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	Asian glossy starling		○				○
29	ミドリカラスモドキ	<i>Aplonis panayensis</i>	Black drongo		○				○
30	オウチヨウ	<i>Dicrurus macrocerus</i>	Rock pigeon		○				○
31	カワラバト	<i>Columba livia</i>	Pacific Swift		○				○
32	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	white bellied erpornis						
33	アオチメドリ	<i>Erpornis zantholeuca</i>	gray cheeked fulvetta, morrison's fulvetta						
34	メジロチメドリ	<i>Alcippe morrisonia</i>	Rufous-capped babbler						
35	ズアカチメドリ	<i>Cyanoderma ruficeps</i>	Chestnut-bellied tit						
36	タイワンヤマガラ	<i>Sittiparus castaneiventris</i>	Black-necked Stilt						○
37	セイタイカンギ	<i>Himantopus himantopus</i>	Sacred Ibis						○
38	アフリカクロトキ	<i>Threskiornis aethiopicus</i>	Grey heron						○
39	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>							○

※リスト中の固有種に関する記載については、2017年に出版された「A field guide to the birds of Taiwan」に従って※「Endemic sp.」と「Endemic ssp.」は、それぞれ固有種および固有亜種を意味する。

8. 参加者アンケート

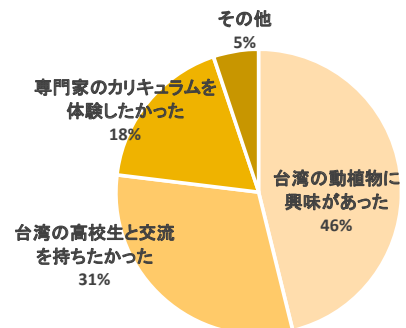
I. 調査体験ツアー全般、開催の時期などについて

問1. 今回の調査体験ツアーに参加したきっかけは何ですか？(複数回答可)

a.	台湾の動植物に興味があった	18人
b.	台湾の高校生と交流を持ちたかった	12人
c.	専門家のカリキュラムを体験したかった	7人
d.	その他	2人

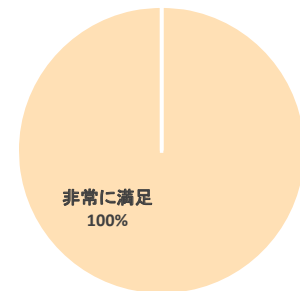
d.その他の内容

先輩に勧められたため
同年代の高校生との交流



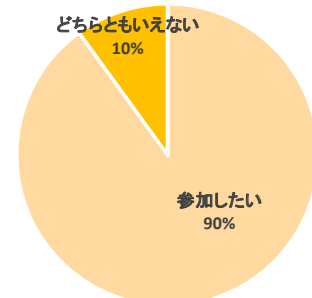
問2. 調査体験ツアーに参加してみて、全般の印象はいかがですか？

a.	非常に満足	20人
b.	満足	0人
c.	どちらともいえない	0人
d.	不満足	0人
e.	非常に不満足	0人



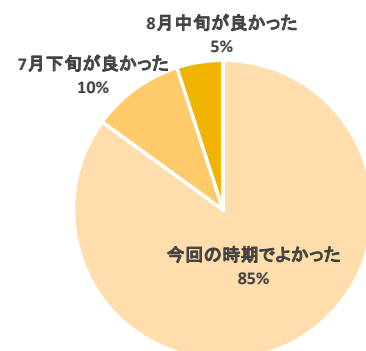
問3. もし、来年も本ツアーに参加できる状況であれば、再び参加してみたいと思いますか？

a.	参加したい	18人
b.	どちらともいえない	2人
c.	参加したくない	0人



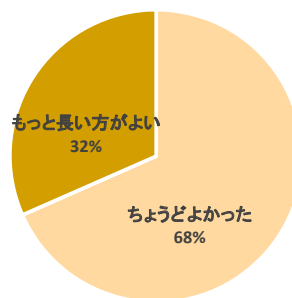
問4. 開催の時期について

a.	今回の時期でよかった	17人
b.	7月下旬が良かった	2人
c.	8月中旬が良かった	1人
d.	8月下旬が良かった	0人



問5. 開催期間(6泊7日)について

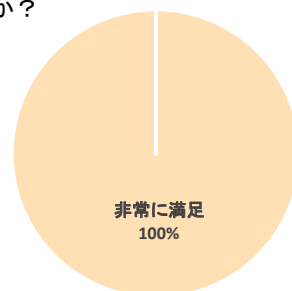
a.	ちょうどよかった	13 人
b.	もっと短い方がよい	0 人
c.	もっと長い方がよい	6 人



II. 調査カリキュラムについて

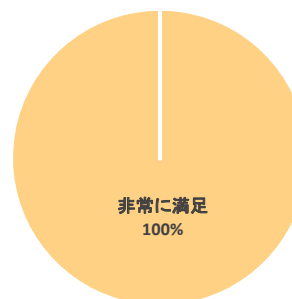
問6. 調査体験カリキュラムの内容について、全体的な満足度はいかがですか？

a.	非常に満足	20 人
b.	満足	0 人
c.	どちらともいえない	0 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



問7. カリキュラムに対する講師の指導内容は、いかがでしたか？

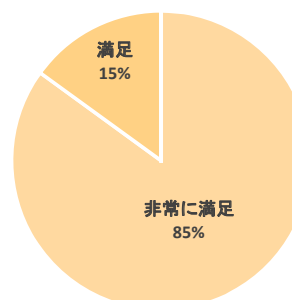
a.	非常に満足	20 人
b.	満足	0 人
c.	どちらともいえない	0 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



問8. 東眼山自然教育センターでのカリキュラム(8/3~8/5)についてお伺いします。

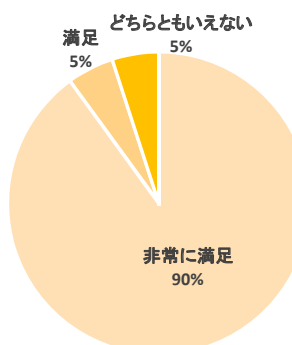
(1) 昼間のフィールド調査はいかがでしたか？

a.	非常に満足	17 人
b.	満足	3 人
c.	どちらともいえない	0 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



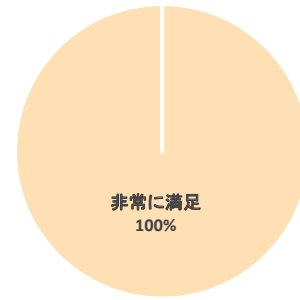
(2) 夜間(ライトトラップ)の調査はいかがでしたか？

a.	非常に満足	18 人
b.	満足	1 人
c.	どちらともいえない	1 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



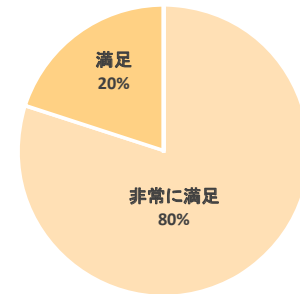
(3)夜間(爬虫類・両生類)のフィールド調査はいかがでしたか？

a.	非常に満足	20人
b.	満足	0人
c.	どちらともいえない	0人
d.	不満足	0人
e.	非常に不満足	0人



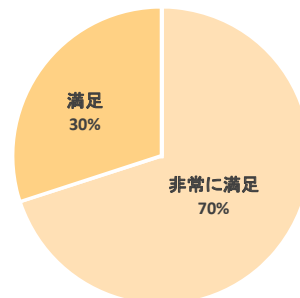
(4)コケの観察、標本作成について

a.	非常に満足	16人
b.	満足	4人
c.	どちらともいえない	0人
d.	不満足	0人
e.	非常に不満足	0人



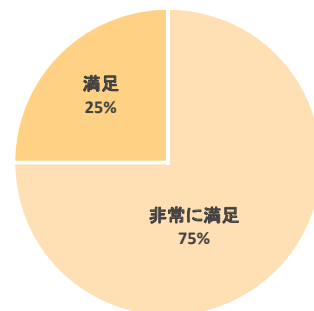
(5)野鳥観察はいかがでしたか？

a.	非常に満足	14人
b.	満足	6人
c.	どちらともいえない	0人
d.	不満足	0人
e.	非常に不満足	0人



(6)カリキュラムの時間配分について

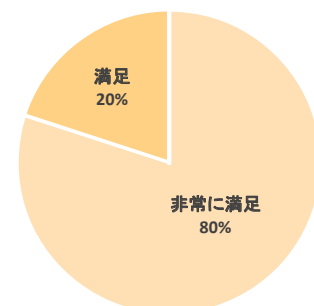
a.	非常に満足	15人
b.	満足	5人
c.	どちらともいえない	0人
d.	不満足	0人
e.	非常に不満足	0人



問9. 台北市立動物園内での調査カリキュラムについてお伺いします。

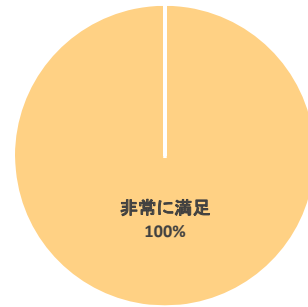
(1)日中(昼間)のフィールド観察(8/6)はいかがでしたか？

a.	非常に満足	16人
b.	満足	4人
c.	どちらともいえない	0人
d.	不満足	0人
e.	非常に不満足	0人



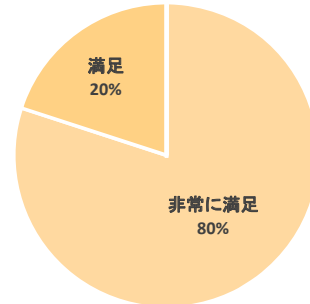
(2) 夜間のフィールド観察(8/2、8/6)はいかがでしたか？

a.	非常に満足	20 人
b.	満足	0 人
c.	どちらともいえない	0 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



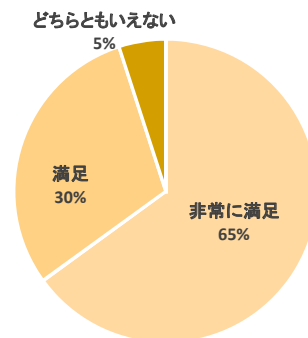
(3) 野鳥観察はいかがでしたか？

a.	非常に満足	16 人
b.	満足	4 人
c.	どちらともいえない	0 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



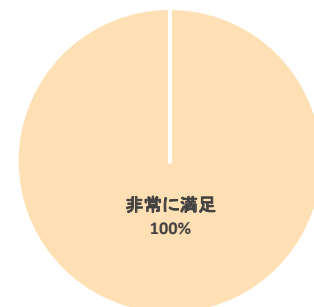
(4) キノボリトカゲの食性調査はいかがでしたか？

a.	非常に満足	13 人
b.	満足	6 人
c.	どちらともいえない	1 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



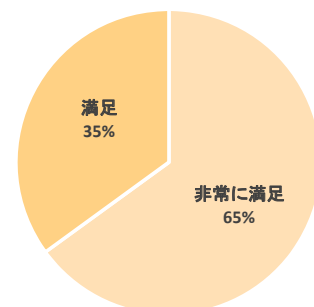
(5) コウモリトラップ(ハーブ網)の設置及び講義、コウモリの個体計測などはいかがでしたか？

a.	非常に満足	20 人
b.	満足	0 人
c.	どちらともいえない	0 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



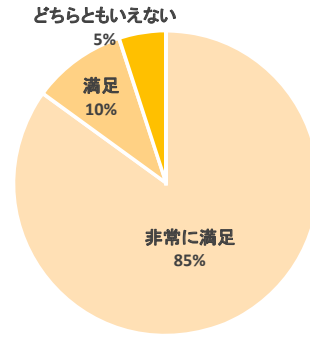
(6) アンテナを使用した野生動物の追跡調査体験はいかがでしたか？

a.	非常に満足	13 人
b.	満足	7 人
c.	どちらともいえない	0 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



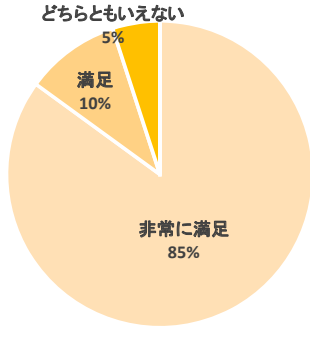
(7) 園内の見学はいかがでしたか？

a.	非常に満足	16 人
b.	満足	3 人
c.	どちらともいえない	1 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



(8) カリキュラムの時間配分について

a.	非常に満足	17 人
b.	満足	2 人
c.	どちらともいえない	1 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



問10. 生き物を学ぶカリキュラム全般について、ご意見をお書きください。(良かった点、悪かった点、改善点など)

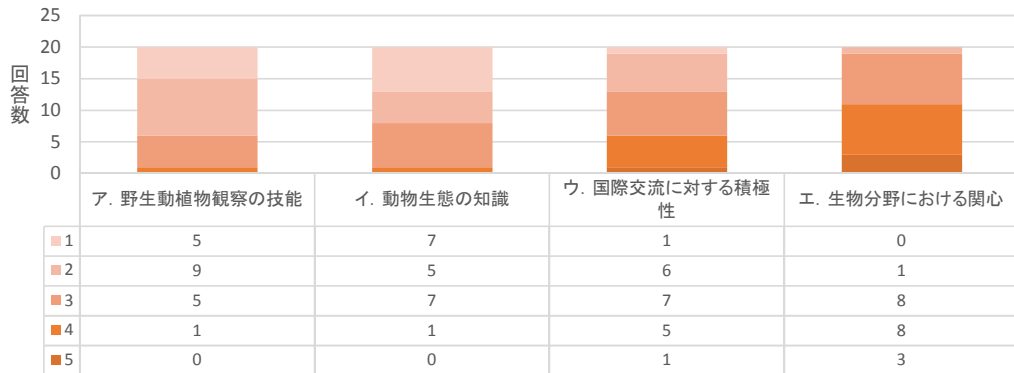
◆	台湾の先生が説明してくださったときは、リーダーが中国語から英語になおしてくれたので生態については理解できたと思いますが、生物の英名を知らなかったのと和名が分かりませんでした。
◆	センザンコウは見たかった。
◆	専門家の方が分かりやすい説明をしながら生き物を触らせてくれたりしたのがとてもおもしろかったです。
◆	台湾の先生からも日本の先生からも生物についての説明を聞いて勉強になりました。台湾の人もみんな名前の中国語を教えてくれて、楽しみながら勉強できました。
◆	専門家の方や現地の方が様々なことを教えてくれてとても勉強になりました。もう少し、台湾の学生と交流したかったです。
◆	たくさん場所でたくさんの生き物が見られてよかった。特に1日を通して観察できたことが良かった。(時間帯によって異なった生物が見られたため)
◆	非常に長い時間観察できたことが良かった。
◆	たくさん生き物を見ることができて良かった。普段は見られないコウモリや昆虫を見ることができてよかった。
◆	日中も夜間も非常に充実したフィールドワークだった。夜間はもう少し時間があると嬉しい。
◆	1つ1つの生き物について、班ごとに少人数制でゆっくり教えていただけなのが良かったです。台湾の子と協力して観察したり活動するときにお互いの国の言葉で話してしまうのでそこが残念でした。
◆	全体的に新しい発見がたくさんあり、とても楽しかったのですが、キノボリトカゲの食性調査を自分でできなかったのが少し残念でした。動物愛護団体はもう少しおとなしくしてほしいと思いました。
◆	日本語での解説があったのが良かった。どんな生物に対しても詳しく説明してくれて、たくさん学べて良かった。
◆	丁寧に生き物の説明をしてくださったところがすごく良かったです。台湾の高校生との交流など、いろいろな経験が出来て、今後の学びに活かせるようなことがたくさんあったのも良かったです。
◆	とても良かった。発見した生物1つ1つをしっかりと説明してくださったのがとても分かりやすかった。
◆	生物についての知識があまりなかったため少し不安でしたが、知識がなくても楽しめました。
◆	グループ行動のおかげで専門家の方々からの意見をしっかりと聞いてよかった。
◆	日本にはいない固有種に触れられたのは大変貴重な体験になったと思います。

問11. 調査体験ツアーに参加する前後での自己評価について、お伺いします。該当する数字に○を付けてください。

(1)参加前

大 ←————→ 小

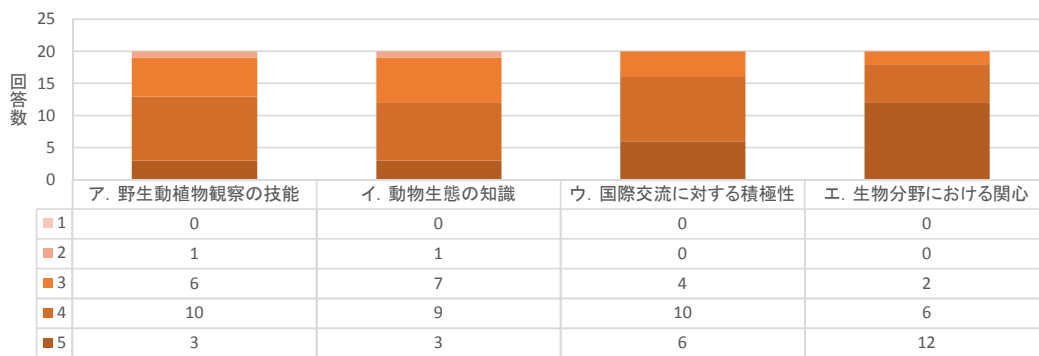
	5	4	3	2	1
ア. 野生動植物観察の技能	0	1	5	9	5
イ. 動物生態の知識	0	1	7	5	7
ウ. 国際交流に対する積極性	1	5	7	6	1
エ. 生物分野における関心	3	8	8	1	0



(2)参加後

大 ←————→ 小

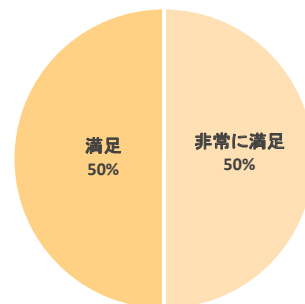
	5	4	3	2	1
ア. 野生動植物観察の技能	3	10	6	1	0
イ. 動物生態の知識	3	9	7	1	0
ウ. 国際交流に対する積極性	6	10	4	0	0
エ. 生物分野における関心	12	6	2	0	0



Ⅲ. 宿泊について

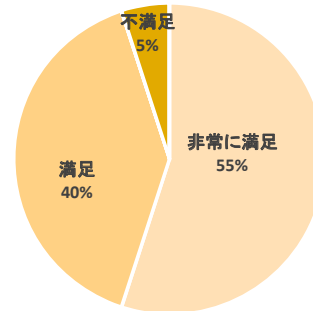
問12. 台北市立動物園での宿泊について、いかがでしたか？

a.	非常に満足	10 人
b.	満足	10 人
c.	どちらともいえない	0 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



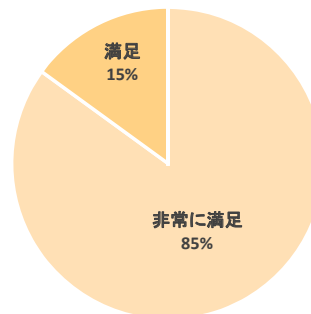
問13. 東眼山での宿泊について、いかがでしたか？

a.	非常に満足	11人
b.	満足	8人
c.	どちらともいえない	0人
d.	不満足	1人
e.	非常に不満足	0人



問14. ハイワンホリデイホテルでの宿泊について、いかがでしたか？

a.	非常に満足	17人
b.	満足	3人
c.	どちらともいえない	0人
d.	不満足	0人
e.	非常に不満足	0人



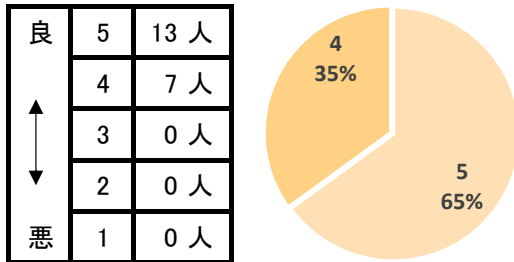
問15. 各施設での宿泊について、ご意見をお書きください。(良かった点、悪かった点、改善点など)

◆	どれも快適でした。ハイワンホリデイホテルでのモーニングコールが有難かったです。
◆	ハイワンホリデイホテルのクーラーの使い方がよくわかりませんでした。
◆	動物園、ホテルは快適でした。東眼山はゴキブリがいたので、寝るとき少し不安でした。
◆	動物園のシャワーに荷物置き場が欲しかったです。パジャマがビショビショになりました。
◆	寝袋など普段体験できないことができてよかった。
◆	寝袋が少し薄かった。
◆	東眼山でゴキブリが出てきてびっくりした。ホテルの設備はとてもよかった。
◆	特に不便なことはなかった。満足した。
◆	東眼山で洗濯をしたら臭いがついてもう1回洗わなければならなかったのでおすすめしないです。
◆	動物園でのトイレシャワーも思ったより楽しかったし、なかなかできない体験が宿泊の面でも多かったです。
◆	台北市立動物園: 普通にきれいでよく眠れた。 東眼山: みんなでお話しできて楽しかった。(大人数のため) ホテル: とてもきれいで広くて良かった。
◆	台北市立動物園: お風呂の時間を班によって決めた方がいいと思いました。一人だけ残されて夜、つらかったです。 ホテル: とても広くて居心地良かったです。
◆	ホテルがとても広くて良かったです。
◆	どの施設もとても良かったです。ハイワンホリデイホテルの朝食に食べれるものが少なすぎて個人的にしんどかったです。東眼山ではよく眠れました。
◆	トイレでシャワーをあびるという初めての体験をしましたが、2日もたつとすっかり慣れていたように思います。

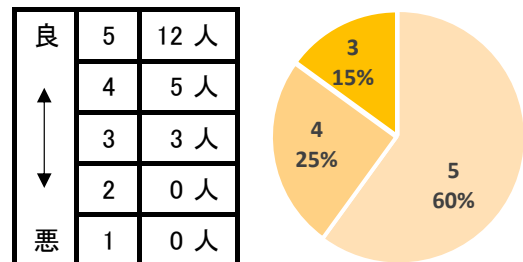
IV. 食事について

問16. 食事の内容について、どうでしたか？

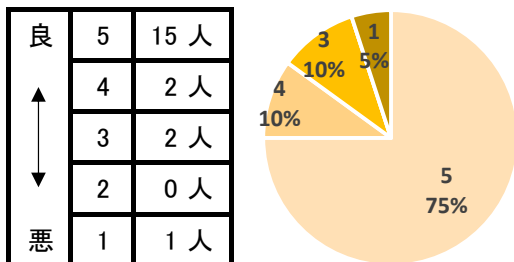
(1)1日目 夕食:動物園カツカレー(レストラン)



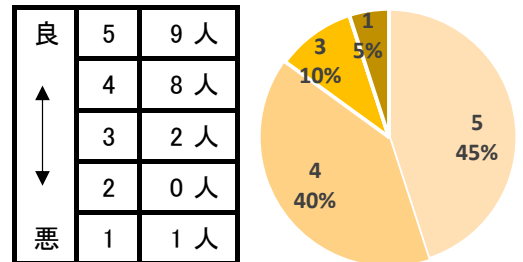
(2)2日目 朝食:動物園サンドイッチ+紅茶



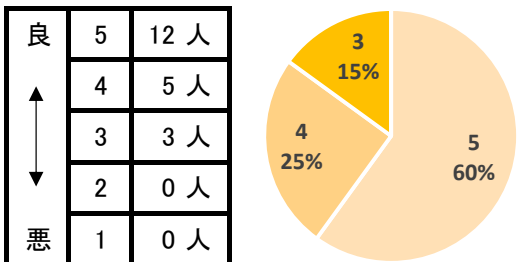
(3)2日目 昼食:東眼山弁当+果物



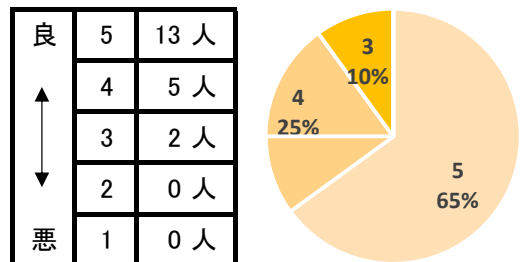
(4)3日目 昼食:東眼山弁当



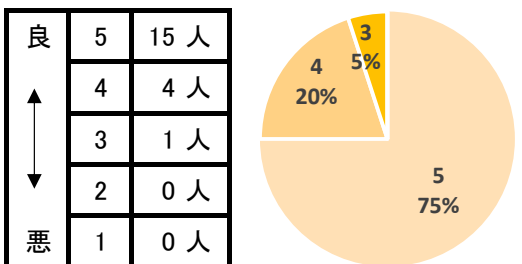
(5)3日目&4日目 朝食:東眼山軽食



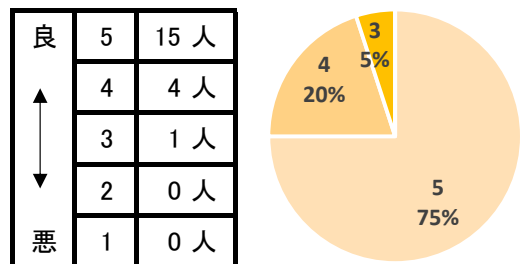
(6)5日目 昼食&夕食:動物園弁当



(7)6日目 昼食:動物園ビュッフェ(研修室前)

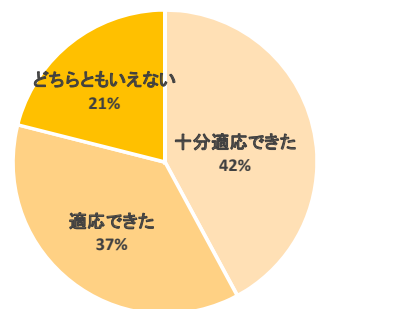


(8)6日目 夕食:市内レストラン



問17. 台湾の食事に適応できましたか？

a.	十分適応できた	8人
b.	適応できた	7人
c.	どちらともいえない	4人
d.	適応できなかった	0人
e.	全く適応できなかった	0人



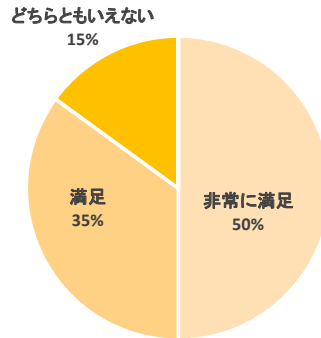
問18. 7日間の食事全般についてご意見をお書きください。(良かった点、悪かった点、改善点など)

◆	ほとんどおいしかったです。辛かったり甘かったりしましたが、食べられる味でした。
◆	弁当の漬物がちょっと辛かったです。
◆	おいしかったです、辛くて食べられないものもありました。
◆	朝のサンドイッチだけ口に合わなかったです。それ以外はバッチリ合い、おいしかったです。
◆	量が多かった。台湾のいろんな食べ物が食べられて良かった。
◆	私は肉が嫌いなので少し弁当が辛かった。
◆	量が多かった。サンドイッチはとてもおいしかった。間食もとてもおいしかった。
◆	少し量が多いと感じたが、毎日おいしい食事だった。
◆	男子の量に合わせているので多いのは仕方がないと思いますが、食べきれなかったのが申し訳ないです。
◆	臭豆腐も思ったよりおいしかったし、色々な種類の食事が食べられて良かったです。
◆	量が多かったため残ってしまった。味はとてもおいしかった。
◆	男子と女子の量が同じだったのでおなかに入らなくて大変でした。紅茶がとんでもなく美味しかったです。
◆	ソーセージが甘くてびっくりしましたが、台湾での食事はとてもおいしかったです。
◆	ピュッフェが苦手でした。サンドイッチなど朝食はとてもおいしかったです。
◆	最初の3日間くらいはお肉の量に苦労しましたが、慣れた後は日本と違う味付けで食べるのが楽しかったです。

V. 台湾人高校生との交流について

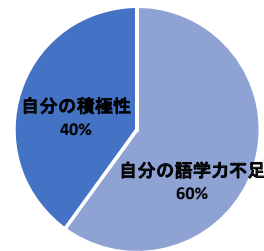
問19. 台湾人高校生とのコミュニケーションについて、いかがでしたか？

a.	非常に満足	10人
b.	満足	7人
c.	どちらともいえない	3人
d.	不満足	0人
e.	非常に不満足	0人



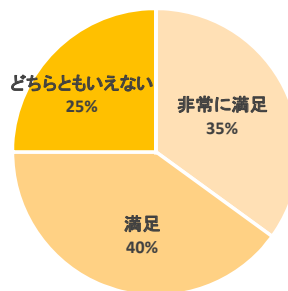
問20. 問19でc、d、eを選ばれた方にお伺いします。原因は何だと思いますか？(複数回答可)

a.	交流プログラムが希薄	0人
b.	自分の語学力不足	3人
c.	自分の積極性	2人
d.	グループ構成	0人
e.	その他	0人



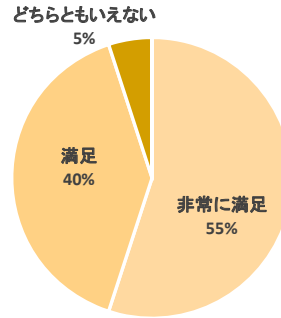
問21. 6日目のポスター制作、発表について、いかがでしたか？

a.	非常に満足	7人
b.	満足	8人
c.	どちらともいえない	5人
d.	不満足	0人
e.	非常に不満足	0人



問22. 各グループ内でのコミュニケーションについて、いかがでしたか？

a.	非常に満足	11 人
b.	満足	8 人
c.	どちらともいえない	1 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



問23. 今回の高校生との交流プログラムを経験して、ご意見をお書きください。(良かった点、悪かった点、改善点など)

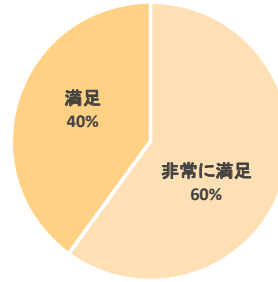
◆	ポスター制作の時間がとても少なかったです。もう少し時間をとってほしかったです。
◆	英語が得意でなくても仲良くなれたのでよかったです。
◆	自分の英語力がなくて積極的に話しかけることができませんでしたが、仲良くなるための時間が十分にあるプログラムでした。
◆	英語や台湾の言語がしゃべれなくても相手もコミュニケーションをとろうとしてくれてとても話しやすかった。やさしい人ばかりでした。
◆	交流する機会は少ないのでいい経験ができた。台湾の人たちは積極的にコミュニケーションをとってくれてうれしかった。
◆	時間が少なかった気がする。
◆	仲良くなれてよかった。しかし、私の語学力不足ですらすら話せなかったのがよくなかった。
◆	部屋が一緒などで、ほかの班の子とも話が出来たのがよかったです。
◆	今回のプログラムでは、グループに英語の通訳をしてくれる人がいたのでかなり助かりました。しかし、次に外国の人と交流するときに通訳の人がいなかったらかなり困るので、自分でもそこそこの語学力をつけたいです。
◆	私たちのグループはとても仲良くなれたけど、どうしても生物を見る時は、解説者の言語が違ったりして日本人と台湾人で分かれてしまった。
◆	もう少しスラスラしゃべることが出来たら、もう少し会話できたのに・・・と思いましたが、それもいい経験となりました。
◆	今まで外国人と話す機会がなく、はじめはとまどってしまい、自分からなかなか話に行ったり、うまく英語が伝わらなかつたりしましたが、最後には仲良くなれてよかったです。
◆	班の台湾の高校生は皆、海外経験があり、英語が上手でした。
◆	台湾の高校生の人たちが皆とてもフレンドリーに接してくれたので、遠慮せずに接することができた。



VI. 台北市内施設の見学について

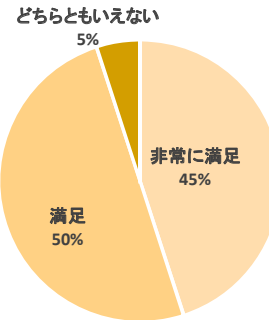
問24. 関渡自然公園の見学はいかがでしたか？

a.	非常に満足	12 人
b.	満足	8 人
c.	どちらともいえない	0 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



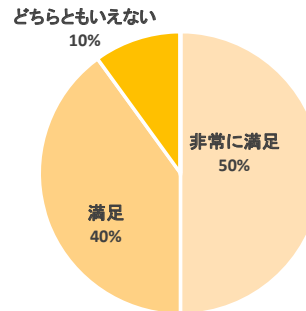
問25. マングローブの見学はいかがでしたか？

a.	非常に満足	9 人
b.	満足	10 人
c.	どちらともいえない	1 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



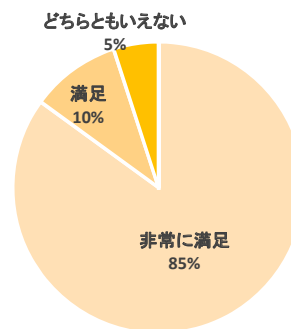
問26. 国立故宮博物館の見学およびガイドについて

a.	非常に満足	10 人
b.	満足	8 人
c.	どちらともいえない	2 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



問27. 公館夜市(ナイトマーケット)の散策について

a.	非常に満足	17 人
b.	満足	2 人
c.	どちらともいえない	1 人
d.	不満足	0 人
e.	非常に不満足	0 人



問28. 台北市内の各所見学で印象に残っていることをお書きください。(良かった点、悪かった点、改善点など)

◆ ナイトマーケットでもっと多くのお店をまわりたいです。
◆ 台湾の文化をたくさん知れたので良かったです。
◆ 台湾の食べ物をいろいろ食べられたり、街を回れたりしてとても楽しかったです。
◆ 臭豆腐が意外とおいしくて驚いた。
◆ 食べ歩きのできる屋台が多かった。小籠包やタピオカがおいしかった。
◆ バスの中でもたくさんの方を教えてもらった。

◆	この日は自分で体調管理をもっと意識すべきだった。ご迷惑をおかけしてすみませんでした。
◆	タピオカがとてもおいしかった。もっと長くナイトマーケットにいたかった。あと、もう少し市内見学の時間を増やしてほしいかった。
◆	マングローブをもう少し見たかったです。
◆	自然と施設がたくさんあった。
◆	前日までが山で涼しかったので相対的にかなり暑かったです。マングローブは名前は知っていたけれど見るのは初めてだったので実際に見られて良かったです。
◆	公館夜市が楽しくて、美味しくて、感動しました。名残惜しいとはこのことなんだと分かりました。
◆	故宮で白菜を見ることができてよかったです。
◆	故宮博物院の時間が少し短かった。
◆	屋台が日本と比べて非常に多かったです。タピオカが安くて驚きました。
◆	故宮博物院では日本で見れないものが見れたので貴重な体験になった。

VII. その他

問29. 調査体験ツアーについて、来年以降実施する場合の改善すべき点や新たなご提案があればご記入ください。

◆	今年の形式で大満足でした。
◆	事前学習会の時期をもう少しずらして頂けると嬉しいです。(テスト中だったため)
◆	今回のツアーで満足でしたが、バスでの移動時間が長かったのもう少し短かったらいいと思います。
◆	カリキュラムの時間配分にもう少し余裕があれば良いと思います。

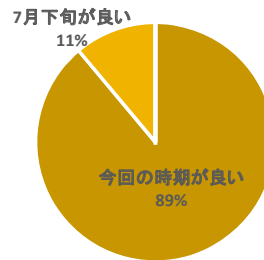
問30. 今回の調査体験ツアーについて、講師や事務局スタッフに伝えたいことがあればご記入ください。

◆	楽しく、学ぶことの多いツアーに参加させてくださり、ありがとうございました。
◆	後輩に勧めておきます(行くかどうかはわかりませんが…)。いい後輩ですよ。
◆	とてもいい体験が出来ました。今後の進路等に役立てようと思います。ありがとうございました。
◆	たくさんの説明ありがとうございました。大変お世話になりました。
◆	このツアーを企画運営してくださりありがとうございました。とても楽しい1週間を過ごせました。
◆	色々ご迷惑をお掛けしてしまいました。とても楽しいツアーを過ごせて良かったです。大変お世話になりました。またメンバーで集まる機会があればと思っています。大変お世話になりました(二重)。ありがとうございました。
◆	講師、スタッフのみなさんのおかげで非常に楽しい毎日でした。ありがとうございました。研究がんばります。
◆	何も知識がないに等しい状態からのスタートだったにも関わらず、優しく、丁寧にご指導いただき本当にありがとうございました。事務などの連絡も細かくして頂き、ありがとうございました。
◆	元々、生物と国際交流を楽しみに参加しましたが、期待を大幅に上回るとても楽しい経験が出来ました。本当に濃い、忘れられない7日間になりました。たくさんのサポートをしてくださり、ありがとうございました。
◆	今回は本当にありがとうございました。色々な生物(自身が好きなものも)を観察できたうえ、たくさんの人と交流できてとても楽しかったです。来年からもがんばって下さい。
◆	7日間お世話になりました。
◆	パスポートを失くしてしまったため、たくさんご迷惑をかけてしまいました。今回のツアーはとても楽しくて、この夏休みで一番の思い出になりました。ありがとうございました。
◆	とても有意義で楽しいツアーでした。ありがとうございました。
◆	どの先生もすごく良くしてくださいました。特にフィールドワークについて先生から直接話を聞いたのが良かったです。
◆	今回のツアーでは大変お世話になりました。この先でも機会があれば、こういったツアーにも積極的に参加したいと思います。

9. 保護者アンケート

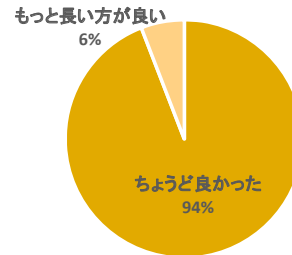
問1. 開催の時期について

a.	今回の時期が良い	16 人
b.	7月下旬が良い	2 人
c.	8月中旬が良い	0 人
d.	8月下旬が良い	0 人



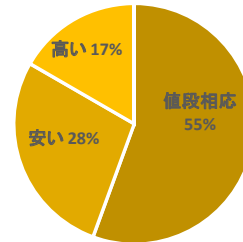
問2. 開催期間(6泊7日)について

a.	ちょうど良かった	16 人
c.	もっと長い方が良い	1 人
b.	もっと短い方が良い	0 人



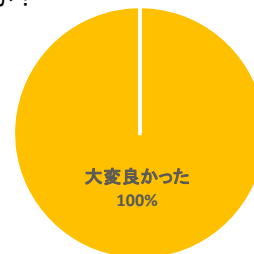
問3. 参加費用(126,800円)について(複数回答あり)

c.	値段相応	10 人
d.	安い	5 人
b.	高い	3 人
a.	とても高い	0 人
e.	とても安い	0 人



問4. 本調査体験ツアーに、お子様を参加させてみて、事後の印象はいかがですか？

a.	大変良かった	17 人
b.	良かった	0 人
c.	どちらとも言えない	0 人
d.	悪かった	0 人
e.	とても悪かった	0 人



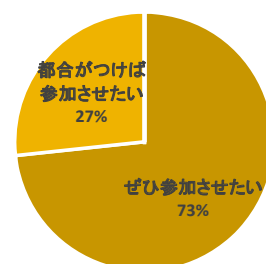
問5. お子様を帰国されて、何か変化はありましたか？あれば、ご記入ください。

◆	昆虫も好きになった。今までより自然に対する興味が強くなった。
◆	台湾に友達が出来たので、英会話や中国語に興味を持つようになった。
◆	友達が増えて、楽しそうにしている。
◆	帰国して翌々日、大学のオープンキャンパスに参加しました。平素、反応が弱くて、指導いただいている学校でも家庭でも、どうアプローチすればやる気がわく(懸賞論文の応募や面接の練習にあまり身が入らない)のだろう、推薦で受験したいというのは中学から決めていたので心配していました。家族旅行の北海道や石垣島は活発に生物の観察・採集するのですが、レベルとしてただの趣味なのか、大学の研究に活かせるレベルなのか分からなかったこともあり、迎えに空港に行って皆さんによく頑張っていたと伺って、それもあって本人もフィールドワークを重視している大学で環境保全を学んで、次世代をはぐむ人材になりたいと目標が定まったように思います。また、何か参加してよいイベント(小さい子、小中学生とのふれあい)等ありましたら誘ってやってください。
◆	以前から、植物(特に樹木)を観察したり、国内外へ樹木巡りをしています。今回は、大好きな植物に加えて、昆虫や鳥、両生類など、ほかの動植物にもフォーカスすることが出来て、とても楽しかったようです。虫は庭や山でもよく見かけ、身近でしたが、今回のツアー後、「鳥も好きになった」と話していました。
◆	英語を上達させたいという気持ちが大きくなったと思います。

◆	本人にとってすごく楽しい一週間だったらしく、経験した色々なことを今でも嬉しそうに話してくれます。台湾で友達もたくさんできたようで、「また行きたい」「将来は台湾に住みたい」とまで言い出しました。親から離れて自分だけで海外に行ったことは彼の中で自信になったようです。
◆	事前研修で人の輪が広がり、事後研修で知識が深まり、ツアーでは貴重な体験と参加者の豊富な知識に触発されたようで、台湾で出会った生物を調べたり、意欲的に取り組む姿が見られた。また、参加者とLINEを通じてやり取りをしているようです。生物好きな仲間と出会えたことは本当に良かったと思います。
◆	これまでも、生き物に関する調査、イベント等には個人や家族で参加してきましたが、これほどまでに特化した内容、意識の高い同世代のメンバー、専門家の先生という環境は初めてで、大変満足して帰国しました。家族やボランティア先、作文(学校の課題など)で積極的にツアーのことを話しています(普段は割と静かです)。各分野の先生方に大きな刺激をいただき、進路について真剣に考え始めました。そして、進路を実現させるために今何をすればよいのかも…(全く考えてなかったわけではありませんが、よりリアルに)。SNSでつながったり、再会してまた学び合える仲間が出来たり、「生き物以外にも興味ありますか」と言われていた息子には大きな成長のみられるありがたい変化です。
◆	もともと生物が好きでしたが、ツアー参加後は植物にも関心を示すようになり、台湾の高校生と話す機会にも恵まれ、興味を持つものが増えたと思います。学校から行く研修とは違い、新しい友達とツアーに行ったこともすごく刺激になったと思います。
◆	今まで体験できなかったことをたくさん体験し、1週間なのに一回り大きくなって帰ってきたように思いました。娘にとって一生忘れられない高校1年生の夏になったと思います。ありがとうございました。
◆	空港からの帰りの車の中でも、話したいことが次から次へと溢れてくるようで、興奮してツアーの皆や、台湾で出会った方々のこと、ポスター発表の話等してくれました。また、皆さんの知識の豊富さにふれ、自分ももっといろんなことを知りたい！！と感じたようで、図書館に行って図鑑を借りてきたり、ほかの子たちともポチポチと連絡を取っているようです。今回のツアーでぐんと視野が広がったのでは、と思います。
◆	この度は大変お世話になりました。申し込みの際は本人がたいへん迷って佐々木さんにご迷惑をおかけしまして……。私もどうなることかと心配しましたが、事前研修から本人の意識がかわり、研修後は毎日台湾のこと、お友達のこと、虫のこと…話してくれます。彼女にとって本当に貴重な体験をさせていただくことができ、心より感謝しております。ありがとうございました。
◆	友達が増え、生き生きしていた。興味のある内容にふれて楽しんでた。
◆	色々な生き物を観察して、とても楽しかったようです。以前にもまして、生き物に興味を持ったようで、ツアーで体験したことや学んだ知識をうれしそうに話しています。参加者の人達や台湾の高校生との交流で、お友達がたくさんできたことも喜んでます。
◆	起立性低血圧で、朝の寝起きが悪かったのですが、旅行中は1人で起床が出来たこと。飛行機旅行が2回目にして、海外旅行に行けたという自信。昆虫や鳥、爬虫類などに以前よりも詳しくなり、調べています。台湾のお友達と英会話が出来たことで、帰国後もラインで連絡を取り合っています。
◆	自分の周りやごく親しい友人としか交流せず、興味のあるものにしに関心を示さない傾向の息子でしたが、帰国後、いろいろなものに実際に触れて、自分の世界を広げることの楽しさに気付いたのか、早速新たな活動に自ら申し込んで参加し、そこでまた新しい刺激をうけている様子です。
◆	帰国後、生物系の学部のあるオープンキャンパスに参加するなど、意識と行動面に変化がありました。事後学習会では、イチジクについて調べたこととことでしたが、調べた資料のことや学んだことを目をキラキラさせながら教えてくれました。その姿からは学ぶ喜びを実感しているように感じました。また、先生方の野帳を見せもらったそうですが、自分のそれと比べて、観察地での手帳の使い方や観察後の調べ方などについても大きな発見があったようです。台湾の子達とも、英語や指差し会話帳を使ってコミュニケーションを取ることが出来ることを体験し、大きな自信につながったと同時に、今後もっともっと英語を勉強した方がよいと感じたようです。また、動物や植物のことなど、台湾で教えてもらってきたことを、親の私自身も興味深く聞くことができ、図書館などを利用して一緒に調べてみようと思いました。

問6. 今後このような体験ツアーに、お子様を参加させてみたいですか？

a.	ぜひ参加させたい	11人
b.	都合がつけば参加させたい	4人
c.	どちらとも言えない	0人
d.	参加させたくない	0人



問7. 今回の調査体験ツアーについて、講師や事務局にご意見があればご記入ください。

◆	大変お世話になりました。ありがとうございました。
◆	開催時期は高1、高2も参加することを考えると今回の時期が良い。
◆	今回は素晴らしい体験と多くの学びを本当にありがとうございました。専門家の方と一緒に、調査の仕方やそれぞれの動植物のことを教えてもらいながら、現地に行くことは、本当にいい経験と刺激になりました。動植物を見て、(可能であれば)触れて、その環境を感じ、生態系として学べる機会は貴重でありたく、息子も本当に楽しかったと言っていました。たくさんの学びに加え、自分と同じように、生物が好きな友達と出会え、一緒に過ごすことが出来た今回のツアーに、親子共々、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。
◆	初めての海外でしたが、安心して参加させていただけました。このツアーでの出会いが、とても貴重なものとなったようです。ありがとうございました。今後も交流が続けられればいいと思います。
◆	日本ではできない貴重な体験をさせていただき、また息子が無事に海外での1週間を過ごすことが出来るように色々手配や心遣いをいただきまして本当にありがとうございました。また、送っていただいた毎日新聞を嬉しそうに眺め、祖父母にも見せていました。これからもこのようなツアーを続けて、多くの高校生たちに貴重な体験をさせてあげてください。
◆	過去の参加者も含め年に1回‘参加者の集い’が開催されたらこの縁が細く長く続くのではと思います。ツアーに参加させてみるとこのツアー費用は決して高いものではないのですが、東京からは移動費がかなりかかるので問3はbに印をつけました。
◆	体調を崩した時も、看護師の丸山さんをはじめ個別に対応してくださり、本人も安心して回復までの時間を過ごせたようです。ありがとうございました。三田のひとはくでの研修は遠方からの参加になりますが、仲間や先生方と会う機会でもあり、本人もぜひとも参加したいとしております。今後もお声がけくだされば幸いです。大学生になったら、ボランティアでまた参加したいそうです。そんな機会もつくっていただければ！
◆	すごく良い経験をさせていただきありがとうございます。自分と同じ生き物が好きな人たちに囲まれて過ごすことができ、大満足のような感じでした。親は見知らぬ人ばかりの中で何日も過ごすことができるか不安でしたが、娘にとってはあつという間でもっと長くてもよかったと思っていますようです。ありがとうございました。
◆	大変お世話になり、ありがとうございました。すべての食事、保険も込みの旅行でしたので、安心できました。
◆	以前、ボルネオジャングル体験スクールの大きなダンゴムシを抱えているポスターを拝見して、高校生になったら参加したい！と希望していたので、今回このような素晴らしい体験をさせていただき、とても充実した1週間だったそうです。今後の進路にも「これでえーんや！」と確信を持つことが出来た様で、お世話になった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。
◆	大変お世話になりました。連絡なども細やかでありがたかったです。
◆	この度は大変お世話になりました。普通では体験できないようなツアー内容で、貴重な体験ができ、充実した7日間だったようです。
◆	7日間でしたが、想像していたよりも楽しくて、勉強にも役立てたようでした。日本と台湾のお友達と7日間だけでも親しくなれたことは娘にはいい体験で、自身にもつながり、今後にも活かしてくれると思います。事故やけがにあわず、帰国したことに感謝しております。ありがとうございました。
◆	今回の体験ツアーでは、本当に多くのすばらしい体験をさせていただきました。息子にとってはとても刺激的な7日間だったようです。高校生の今、このような体験をすることにとっても大きな意義を感じました。たくさんの準備をしてくださった日台のスタッフの皆様、丁寧にご指導いただきました講師の先生方、その他関わってくださったすべての皆様にとっても感謝しています。ありがとうございました。
◆	お世話になり、ありがとうございました。
◆	今回はとても貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。ひとはくブログやFacebook上での日々の様子について毎日大変楽しく拝見させて頂きました。もし、可能であれば最終日の発表会の様子などをyoutubeなどで、日本にいてもライブ配信などを通して視聴できたら、より現地の様子が分かったと思います。また、動画を配信することで、保護者だけではなく次年度以降の興味ある参加者により情報が行き渡るのではないかと思います。参考ですが、娘の同級生の友人が参加した「きみっしょん」が http://www.isas.jaxa.jp/kimission/ 動画配信していました。あと、帰国後、下痢の症状と腹痛を訴えたため、念のため病院で食中毒の検査をしましたが、結果は陰性でした。本人から聞いたところでは、もしかしたら夜市で食べたレモンソーロン茶の氷(溶けた氷も全て飲み干したそうです)が怪しかったかもしれないとのことでした。生水は飲まないようにしていたようですが、夜市のアイ스티ーの氷までには気が回らなかったそうです。次年度以降の参考になれば幸いです。

10. 集合写真



2019年8月4日 東眼山にて



2019年8月5日 東眼山にて



2019年8月7日 台北市立動物園にて

編集



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

〒 538-0036

大阪市鶴見区緑地公園 2-136

TEL : 06-6915-4513



兵庫県立人と自然の博物館

〒 669-1546

兵庫県三田市弥生が丘六丁目

TEL : 079-559-2001